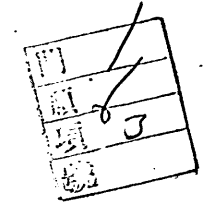


秘



極東露領政情
知多

政情

(自大正十年六月)

歐米局

西比利亞政情

知

多

政

情

(自大正十年一月
至大正十年六月)

歐米局第一課調査

目次

第一章 極東共和國成立後ニ於ケル一般政情憲法會議閉會期ニ至ル	一
第一節 財政問題	三
第二節 給養問題	四
第三節 極東共和國軍情	七
第四節 對外關係(主トシテ對米關係)	七
第五節 對日交渉	一六
第一 撤兵及内政不干渉ニ關スル知多政府提議	一六
第二 薩哈連漁業管理ニ對スル知多政府抗議	一七
第三 露領沿岸ノ漁業權擁護ニ關スル帝國政府ノ提案ニ對スル抗議	一七
第四 撤兵問題ニ關聯スル知多外務次官ノ來浦	一七
第五 「タウビ」河谷ニ於ケル日本軍行動ニ對スル知多政府抗議	一八
第六 「クロネ」事件ニ關スル知多政府覺書	一九
第七 知多憲法會議ヨリ本邦視察員派遣ニ關スル照會	一九

第八	憲法會議ノ對世界宣言並對日本宣言覺書	一九
第九	尼港再占領、漁區競賣、浦潮事變等ニ關スル知多政府抗議	二〇
第二章	極東國民憲法會議	二三
第一節	會議召集	二三
第二節	會議開會	二四
第三節	各黨派議會宣言案	二六
第四節	政府信任討議	二九
第五節	勘察加割讓問題(勞農政府トノ境界條約)	三二
第六節	議會宣言(附對世界聲明、對日支米三國聲明)	三三
第七節	憲法制定	三六
第八節	英佛兩國宛同文通牒	三七
第九節	新政府成立及憲法會議閉會	三七
第十節	憲法會議ニ於ケル共產黨及非共產黨ノ關係	三八
第三章	憲法會議後ニ於ケル一般政情	四三
第一節	「ニキーロフ」内閣成立	四三
第二節	知多政府ノ内訌	四五
第三節	知多政府新貨幣令	四六
第四節	知多民情並浦潮政變ノ影響	四七
第五節	「ユーリッ」外相ノ外交觀	四八
附錄	極東共和國憲法	五一

知 多 政 情

第一章 極東共和國成立後ニ於ケル一般政情 (知多憲法會議閉會期ニ至ル)

第一節 財政問題

客年十一月極東各政權ノ統一成リ極東共和國ノ成立ヲ見タルトモ後員加爾地方一般ニ物資ノ缺乏甚シク政府ノ財政住民ノ生活共ニ甚シキ窮厄ニ陥レリ之ヲ以テ新政府存立上第一ノ重要問題ハ實ニ財政及給養ノ調節問題タルニ至レリ客年十一月知多ニ於ケル統一會議ノ席上ニ於テ「フランス・シナ・ヨロ」カ

極東共和國建設ノ最大生命ハ民主主義ニモアラズ各派ノ統一ニモアラズ實ニ金錢ト原料品ナリ

ト極言シタルハ又以テ新政府ノ財政窮乏ニ對スル痛感ヲ見ルニ足ルヘシ茲ニ於テ新政府ハ一方ニ於テ憲法會議開催ノ準備ニ着手スルト同時ニ他方鋭意財政整理ノ途ヲ講ゼリ憲法會議開催ノ當初大藏大臣「イワノフ」ノ財政問題ニ關スル意見トシテ傳ヘラレタル所ヲ綜合スルニ次ノ如シ

一、極東共和國カ果シテ幾何ノ現金ヲ保有スルカニ關シ各地方政權ハ確實ナル報告ヲ避ケツツアルヲ以テ精確ナル調査ヲ得ルコト不可能ナリ從ツテ之ニ據ツテ財政策ヲ樹ツルコトヲ得ス

二、假令極東ニ存在スル現金ヲ知多政府ニ於テ統一管理スルトスルモ到底現下ノ需要ヲ充スニ足ラサルハ明ナルヲ以テ外國ヨリノ借款及利權讓渡ニ依ル收入ニ財政ノ基礎ヲ求ムルノ外ナシ

三、極東共和國ノ紙幣ハ現在全ク無價值ノ狀態ニ在ルヲ以テ右收入ヲ基礎トシテ幣制ノ整理ヲ斷行セサルヘカラス

四、幣制整理ノ方法トシテハ列國ノ信用ヲ求ムル爲外國銀行ニ正貨ヲ蓄積シ確實ナル兌換紙幣ヲ發行スルヲ要ス

五、利權及借款ニ關シテハ外國資本ノ活用範圍ヲ出來得ル限り廣クシ且產業ノ自由ヲ保障スルヲ要ス
六、利權借款以外ノ政府收入ハ一般徵稅及關稅ノ外ニ毛皮及重要農產物ヲ專賣トシ以テ政府ノ收入ヲ增加スヘシ
之ヲ要スルニ知多政府ノ財政策ノ目標ハ利權借款通商ニ在リ
本年一月三日政府ハ最高經濟會議條例ヲ決議シタルカ其ノ要旨次ノ如シ
一、極東共和國最高經濟會議ハ國家ノ最高機關トシテ生産ニ關スル一切ノ事項ヲ處理シ總テノ事業ヲ監理シ原料品加工
品及半加工品ノ處分ヲ爲ス
二、最高經濟會議カ國家ノ經營スル企業ニ要スル物資ノ供給及異動ニ關シテ發スル命令ハ各官衙ニ對シ拘束力ヲ有ス
三、各種ノ經濟會議ヲ設置シテ最高會議ニ隸屬セシム
知多政府カ如何ニ其ノ經濟的財政的隆興策ニ腐心シツツアルカハ之ヲ以テ其ノ一端ヲ知ルニ足ルヘシ
越エテ一月十四日政府ハ其ノ資源全部ヲ集中シ幣制整理ヲ實施スルノ第一歩トシテ次ノ法律ヲ發布セリ
一、金貨、銀貨及銅貨ハ本法律發布ノ日ヨリ之ヲ國有トシ其ノ通用ヲ廢止ス
前記貨幣ハ本法律發布後二週間以內ニ國立銀行又ハ共和國金庫ニ納入スヘシ
二、前記期間經過後發見セラレタル貨幣ハ何人ノ所有タルヲ問ハズ之ヲ沒收ス
右貨幣所持者ハ投機ニ關スル法律ニ照シテ之ヲ處罰ス
但シ一人ニ付二十五留以內ヲ所持スルコトヲ妨ケス
三、財政大臣ハ前記貨幣ノ提出者ニ對シテ代價ヲ支拂フヘシ
四、本法律ハ電信ニ依リテ之ヲ施行スヘキモノトス
然ルニ本法律ヲ遵守セサル者多ク其ノ成績甚タ思ハシカラサルモノアリシヲ以テ二月二十四日ニ至リ政府ハ重隊ヲシテ突
然市内各商店ノ金庫及市民各人ノ懷中ヲ點檢セシメ多額ノ金銀貨ヲ沒收セリ

其ノ後憲法會議ニ於テ「イワノフ」藏相ハ右法律ニ依ル貨幣政策ニ關シ大要左ノ如キ演說ヲ試ミタリ

客年十一月十五日附ノ幣制改革(註)ハ元來反政府の政權ノ通貨ヲ驅除シ我ニ好意ヲ有スル政權下ノ通貨ヲ存置シ我國庫
ニ硬貨ヲ集中シ外國物資購入ノ目的ニ充テムトシタルモノナルモ不結果ヲ招キタルヲ以テ政府ハ領内各種ノ通貨全部ヲ
廢止シ新規ナル通貨(硬貨)ヲ以テ之ニ代フヘキ筈ナルモ現下ノ事情上不可能ナルヲ以テ紙幣ハ依然存置セサルヲ得ス政
府ハ領内資源ノ完全ナル支配者タルヘク政府承認ノ條件トシテ何等カノ保障ヲ以テ外債ヲ募集セントス之ニ依ツテ在外
資金ハ領内通貨ノ效力ヲ生スヘク政府ハ其ノ倍額進ノ融通ヲ爲シ得ヘキモ紙幣ノ濫發ハ制限セサルヘカラス云々

尙本法律發布當時ニ於ケル市場ノ實際ヲ見ルニ客年十一月十五日ノ法律ニモ拘ハラズ紙幣ハ殆ント通用セス露國金銀硬貨
及日本貨幣流通シ就中日本貨幣ノ信用最モ厚ク住民モ日本貨幣ヲ最モ歡迎シツツアリタリト云フ

註 一九二〇年十一月十五日極東共和國政府ノ發布ニ係ル紙幣流通ニ關スル法律ノ要領

第一條 極東共和國發行ノ二留、三留、五留、十留、二十五留、五十留、百留及千留ノ證券及紙幣、後員加爾臨時自
治會ノ捺印ヲ有スル二十五留以上百留ノ米國型紙幣及滿洲政府發行ノ二十五留以上百留ノ紙幣ハ金、銀及銅製ノ硬
貨ト同一ノ通用力ヲ有スルヲ官衙職權者及私人ハ之ヲ受納スル義務ヲ有シ何人モ之カ受納ヲ拒絕シ又ハ金屬貨幣ニ
テ支拂ヲ爲スコトヲ要求スルコトヲ得ス

第二條 國立銀行ハ金、銀、銅貨ヲ其ノ金庫ニ集中シ之ヲ流通セシメサルヲ要ス

第三條乃至第七條略

第二節 給養問題

知多政府ハ財政ノ基礎上述ノ如ク薄弱ナルカ故ニ軍隊及勤勞者ニ對シテ正規ノ俸給ヲ支拂フノ餘裕ナク殊ニ政府ノ各機關
ニハ必要以上ノ人員ヲ多數ニ收容セラレ居ルヲ以テ勤勞者ノ數適當ニ整理セラレ財政狀態ノ恢復ヲ見ルニ至ルマテ當分必

要ナル現品給養ノ方法ヲ續行スルニ至レリ然ルニ右現品給養制度ハ形式上其ノ體裁ヲ具ヘタルモ實際ニ於テ到底満足ナル實施ヲ見ルヲ得サルヲ結果途ニ勤勞ノ種類ニ依リ給養ノ階級ヲ設クルニ至レリ二月二十八日ノ憲法會議ニ於テ給養商務大臣「グロスマン」ハ右ニ關シ左ノ如キ説明ヲ爲セリ

吾人ハ軍隊ト老幼ノ給養ヲ第一ニ考慮セサルヘカラス政府ノ現在所有スル食糧ノ豫備ハ極メテ少量ナルヲ以テ政策トシテハ國家ニ最モ必要ナル勞働ニ從事スル者ノミニ籍國ヲ限定スルノ外ナキニ至リ現在毎日完全ニ食糧ヲ受クル者ハ鑛山勞働者ニシテ之ニ次イテハ鐵道従業員ナリ云々

軍隊及鑛山勞働者ニ對シ最モ給養ヲ厚クスルハ蓋シ其國家主要ノ勞働ニ從事スルノミナラス軍隊ニ於ケル給養如何ハ叛亂ト掠奪ノ危險ヲ伴ヒ鑛山勞働者モ亦動モスレハ罷業ト叛亂ヲ起スノ懼アルヲ以テナリ而シテ軍隊及鑛山勞働者ニ次イテ給養ノ必要ヲ認メラレタル鐵道従業員ハ本年一月其ノ給養ノ不滿ニ對シテ反抗的氣勢ヲ示シタル爲メ糧ニ其ノ食料ヲ給與セラレタルノ事實アリ事情斯クノ如クナルヲ以テ他ノ勤勞者ニ對シテ給養狀態ハ蓋シ思半ニ過クルモノアリ之ヲ要スルニ給養不充分ノ不滿ヨリ政府ニ對シテ反抗的態度ヲ執ルモノノ續出ヲ防止スル爲メ政府ハ一箇月約二百五十萬留ノ支出ヲ爲シ銳意給養ノ調節ヲ計リツツアリ

第三節 極東共和國軍情

極東共和國陸軍ハ二軍團ヨリ成ル其ノ編成ノ概要ヲ表示スレハ次ノ如シ

第一軍

第一 知多師團

- 旅 團 二
- 聯 隊 六 (銃數六千、機關銃八十)

第二 「ウニルフネ」市師團

- 旅 團 二
- 聯 隊 六 (銃數六千九百、機關銃五十二)
- 騎兵聯隊 一
- 輕砲大隊 二 (砲十六門)
- 重砲大隊 一 (砲四門)

第三 黑龍師團

- 旅 團 三
- 聯 隊 五 (銃數四千、機關銃百十四)
- 騎兵聯隊 二
- 輕砲大隊 一 (砲八門)

後貝加爾騎兵師團

- 旅 團 三
- 聯 隊 九 (銃數三千、機關銃二十二)
- 騎砲兵大隊 一 (砲數不明)

第一 「ロイツコフスク」騎兵旅團

聯隊	三 (銃數千六百)	六
騎砲兵中隊	一	
第二「ストレンスク」騎兵旅團		
聯隊	三 (銃數不明)	
第二軍		
第四 武市師團		
旅團	三	
聯隊	九 (銃數九千、機關銃九十二)	
騎兵聯隊	一	
輕砲大隊	三	
重砲大隊	一	
榴彈砲中隊	一	
其他	三 (九列車)	
裝甲列車大隊	三	
航空支隊	二	
鐵道大隊	二	
鐵道守備旅團	二	
補充隊	二	
步兵聯隊	二	

騎兵聯隊
砲兵大隊
工兵大隊
國境守備隊

第四節 對外關係(主トシテ對米關係)

知多政府ノ對外態度ヲ概觀スルニ支那ニ對シテハ專ラ其ノ歡心ヲ買フニ努メツアリ兩國間ノ主要懸案ハ東支鐵道ニ對スル管理權ト蒙古獨立ニ關スル二問題ナリトス東支鐵道ニ關シテハ同鐵道沿線ノ主權ハ之ヲ放棄スヘキモ鐵道營業權ハ當然之ヲ繼承スヘキモノナトノ主張ヲ持スルモノノ如ク蒙古ニ對シテハ勞農政府側カ其ノ獨立運動ニ聲援ヲ與ヘツツアルカ如キモ知多政府ハ專ラ支那ノ感情ヲ害スルコトナク滿洲方面ニ於テ實利ヲ得ント企圖スルモノノ如シ

日本ニ對シテハ其ノ駐兵ニ惡感ヲ加ヘ事毎ニ之ヲ利用シテ民心ヲ此ノ方面ニ轉換セムト努メツツアリ然ルニ一方ニ於テ日本ノ行動ニ對シテハ極メテ神經過敏ニシテ殊ニ日本軍ニ關スル荒唐無稽ナル情報ニ屢々脅威セラレツツアリ之ト共ニ日本トノ通商ヲ復活シ之ニ利權ヲ讓許スルコトニ依リテ其ノ經濟的援助ヲ得ムトスルノ態度ヲ示セリ

而シテ知多政府カ最モ好意ヲ表シテ其ノ親善關係ヲ緊カムト欲スルハ米國ニ外ナラス米國ニ對シテハ機會アル毎ニ之カ歡心ヲ買フノ態度ヲ示スト共ニ米國ノ速カニ知多政府承認ニ出テ之ト通商ヲ開始セムコトヲ希望シタルカ本年三月初米國ニ於テ「ハーディン」新ニ大統領ニ就任スルヤ知多政府首班「クラス」ノシヤコフハ極東共和國大統領兼外相ノ名ニ於テ直ニ之ニ對シ祝電ヲ發シ

大米國ノ垂レタル民主主義及理想ノ光輝アル範例ハ悲慘ナル破壞ト戰ヒツツアル吾國民ニ取リ眞箇ノ靈的激勵タリ余ハ吾國民及其ノ代表者カ米國ノ自由及自決ノ理想ニ忠實ナル貴新政府カ吾カ若年ノ共和國ヲ援助シ且承認セムコトヲ確信

期待ス

トノ希望ヲ表明シ同時ニ憲法會議々長「シヨロフ」モ亦米國上下兩院議長ニ對シテ祝電ヲ送リ
「吾カ極東諸州カ外國侵略ト其ノ干涉ニ起因スル内亂ノ戰場ト化シタル結ニ年アリ今ヤ内敵ハ敗北シ外國干涉軍モ其ノ跡
ヲ絶チ地方ハ漸ク平定ニ歸シタルモ唯南部沿海州ニ於テ「セロフ」一派カ不法ナル日本軍ノ駐屯ヲ利用シテ不逞行爲ヲ
企圖シツツアルノミ吾カ領内ニハ勞農諸國ト分離シ政體ヲ異ニセル獨立ノ民主的新國家建設セラレムトシ之任ニ當レ
ル憲法會議ハ貴共和國ノ威權ト支援トヲ求メツツアリ吾カ國民ハ自由及自治主義ニ忠實ナル貴國政府及議會カ吾人ノ對
テ干涉排斥、獨立自存ノ戰ニ於テ吾カ若年ノ共和國ヲ援助セラレムト切ニ期待ス

トノ趣旨ヲ附言セリ

其後三月二十四日ノ憲法會議ニ於テ日支米三國ニ對スル宣言ヲ讀ムルヤ米國ニ對シテハ

米國軍ノ西比利亞撤退後日本軍ハ尙駐マリテ橫暴ノ態度ヲ持ツツアル處今ヤ極東ハ統一セラレムトシツツアルヲ以テ

米國ハ日本軍ノ撤退ニ付盡力セラレタシ

トノ要旨ヲ宣言ヲ決議シ越エテ三日即チ三月二十六日附書翰ヲ以テ知多政府ハ米國政府ニ對シテ大要次ノ如キ希望ヲ表明ス
ル所アリ

一、武力干涉ヲ排シ隣國トノ經濟的正常關係ニ入ラムコトヲ希望ス

二、私有財産制度ヲ認メ露國(勸密加、薩哈連ヲ含ム)ノ富源開發ノ爲メニ外資ヲ俟チ米國ノ協力ヲ欲ス

三、極東共和國ハ真正ナル共和國ノ助力ヲ要シ米國トノ緊密ナル親善ヲ希望ス

四、米國ト代表者ヲ交換セムコトヲ希望ス

右代表者派遣ノ目的ハ政治的經濟的關係ヲ明ニシ通商利權ニ關スル取極ヲ締結シ兩國ノ諒解親近ヲ企圖スルニ在リ
他方米國ニ於テモ政府並民間ノ資本家ハ西比利亞ニ於ケル政情ニ注意ヲ拂ヒ殊ニ同方面ニ於ケル利權問題ニ關聯シテ大イ

ニ暗中飛躍ヲ試ミツツアリタルモ如クタル就中駐支米國公使「クレイ」知キハ在北京極東共和國政府代表「ユ
リン」ノ對支外交及財政政策ヲ援助シ支那ト極東共和國トノ間ニ介在シテ兩國ニ於ケル米國ノ各種利權ノ獲得ニ努メ殊ニ
「ユリン」ト提携シ或ハ之ヲ操縱シテ對西比利亞發展ニ努力シツツアリト觀察セラレタルカ三月二十六日「ユリン」ハ駐
支米國公使ニ對シテ如キ趣旨ノ書翰ヲ送レタ云フ

(前略)

米國ノ大工業組織ハ今既ニ石油開採ニ發展セタトシツツアリテ極東共和國ノ廣大ナル石油鑛區ハ必ズ米國資本家ハ滿
足スルニ足ルモノナリ兩國ハ密接ナル關係ハ之ニ依リテ益々重要ヲ加ヘ兩國政府ニシテ互ニ國情ヲ諒解スル所アラハ吾

人ノ理想ハ將來必ズ實現セラルヘシ

極東共和國ハ國家ノ命脈ヲ保持セムカ爲メニ真正ナル民主主義國ノ援助ヲ希望シ米國トノ關係ノ密接ニシテ切要ナルヲ
殊ニ知覺ス今日迄孤立無援ノ地位ニ在リシ極東共和國ハ米國政府ニ對シテ其ノ抱懷スル意思ヲ訴フルヲ得タルヲ喜ブ極
東共和國ハ米露通商條約ノ訂結實業發展ノ目的トスル投資、相互條約ノ訂定、各種大貿易ノ實現等ニ就テ代表ヲ米國ニ
派遣セムコトヲ希望ス閣下願ハクハ是等ノ意見ヲ米國政府ニ傳達シ米國政府ヨリ正式代表ヲ極東共和國ニ派遣セラレム

コトヲ期待ス云々

其後米國政府ハ在本邦米國大使館附商務官「アボット」及武官補「デヴィス」ノ兩氏ヲシテ知多方面ニ派遣セシムルコトナ
リ兩氏ハ四月下旬浦潮經由知多ニ向ヒテ出發シタリ右ニ就キ在本邦米國代理大使ハ兩氏ノ知多行ハ單ニ經濟上政治上ノ狀
態ヲ觀察スルヲ目的トスルモノニシテ何等知多政府ト交渉スル權限ヲ賦與セラレタリ又「デヴィス」ハ米國政府ハ此際知多政府ヲ
承認スル等ノ意圖ナキモノト思考スル旨ヲ表明シタルカ右「一行」旅行ニ關シテハ種々ナル憶測行ハレ四月二十四日浦潮諸
露字新聞ハ

「アボット」一行ノ知多行ハ知多政府カ難ニ米國ニ發シタル電照ニ對スル應答ヲ意味スルヤ否ヤ明示ナキモ其ノ使命カ東

支内比利亞兩鐵道ニ關スル要件並知多政情觀察ニ在ルヘク知多ハ事實上承認セラルルノ結果トナレハシト認テラルル云々

ト報シ同日浦潮ハ一共產黨機關紙ハ其ノ社説ニ於テ「承認ノ遺途」ト題シテ「吾人ハ舊ニ吾カ憲法會議ヲ發シタル對米電照ニ對シ西比利亞ニ經濟的利害關係ヲ有スル米國カ何等應答ヲ爲ササル理由ナキヲ指摘シタルカ遺般ハ使節派遣ハ米國カ吾ヲ承認スルノ用意ナルヲ示スモノニ外ナラス云々」ト論シ二十六日浦潮ハ知多政府機關紙ハ「ツイルソン」時代ニ於ケル米國ノ對露政策ハ實行的ニ非スシテ宣言的ナリキ「ハーディング」ニ至リ米國ハ歐洲問題ニ關シ積極的態度ヲ執ルニ至レリ極東共和國ハ歐露ト關係ヲ保持シツツ對日本關係ニ於テ生シタル緩衝國ナリ即チ米國ニ取リテハ緩衝國ノ存在ト日本ノ極東露國占領トハ何レカ可ナルヤト問題ナリ日本ノ侵略的政策ハ曾ニ國際關係ヲ複雜ナラシムルノミナラス米國ニ取リ經濟上危險ナリト謂フ「吾人ハ「アボット」ニ行カ右ノ事情ヲ考慮ニ入レ露國民ノ輿論並共和國ノ現狀ヲ詳ニセムコトヲ信スルモノナリ」ト述ヘタリ更ニ同日浦潮ニ於ケル中立溫和派機關紙ノ論調ヲ見ルニ概次ノ如シ

米國ノ積極的世界政策ヲ開始カ西比利亞及極東露國ニ對シテハ發現的徵アルハ撤兵後萬事消極的態度ニ出ラタル同國政府カ今同知多ニ「アボット」使節ヲ派遣スルニ至リタルニ依リ證セラル本使節ヲ派遣ハ一隣邦ノ獨占的威壓ヲ解除シ極東ラシテ國際的利害接衝ノ舞臺ヲラシムルモノニシテ特ニ使節ノ長トシテ商務官ヲ任命セルハ米國ノ經濟關係ノ重視ヲ語ルモノニシテ極東國家ノ死活問題タル經濟政策ノ解決上本件カ極メテ重要ナル意義ヲ有シ且ツ其ノ動機カ米國ノ新市場ヲ欲スルニ在ルヤ論ナシ尙右使節ヲ使命シ主ナルモツトシテ東支鐵道問題ヲ報セルハ注目ニ値ス本件ノ進展如何ニヨリ極東更上ノ新頁ニ入ラムトスルモノナリ云々

兩氏ノ浦潮ニ到着スルヤ同地滞在ノ知多外務次官「ニセウニヨラ」ハ之ヲ迎ヘテ歡特大ニ努ムル所アリタルカ其ノ歡迎

席ニ於テ左ノ如キ挨拶ヲ爲セリ

過去ニ於ケル米露關係ハ唯一ノ暗黒點ハ米國ハ西伯利亞出兵ニ參加シタルコトナリ然レトモ米國ハ既ニ其ノ態度ヲ改メテ劈頭我領土ヨリ撤兵セリ今若シ露國ハ出兵終了ニ關スル米國ノ堂々タル聲明ト米國ノ發意ニ依リ西伯利亞ニ出兵シタル各國ニ對スル撤兵報告日ニ依リ論理的ニ生ラサレキ次ノ一報ヲ豫期シタリ云々

之ニ對シ「アボット」氏ハ露國側ノ親善ナル歡迎ヲ感謝シタル後

米國政府カ吾人ヲ當地ニ派遣シタルハ第二者イテ手ニ依ル情報ニ満足セシテ直接極東共和國内ノ實情ヲ調査セシムカ爲メニシテ吾人ハ喜ビテ此ノ職責ヲ引受ケタリ同時ニ吾人ハ純乎タル態度ニ依リ露國ノ實情ヲ調査シ其ノ真相ヲ自國政府ニ報告セムトスルモノナリ云々

ト述ヘタルト傳ヘラル而シテ當時ニ於ケル兩者ノ間ノ辭令交換以上ノ親近的態度ハ異常ナル注意ヲ喚起シタリト云フ

尙三月二十八日知多政府首班「クラスノシヤヨコフ」ハ英國外相ニ對シ大要左ノ如キ電照ヲ發セルト云フ

極東亞民ヲ代表セル憲法會議ヲ委任ニ依リ余ハ英國政府カ全露帝國領内ニ勃興シタル各小共和國ヲ承認シタル政策ニ則リ本會議開會中ニ極東共和國ト通商ヲ開始シ本政府ヲ正式ニ承認シ兩國間ノ關係ヲ制定セムコトヲ期待ス云々

第五節 對日交涉

第一 撤兵及內政不干渉ニ關スル知多政府提議

客年十二月知多ニ於ケル極東統一會議ノ結果外觀上ハ極東共和國政府成立シタルカ如キモ其ノ基礎ノ確立及主義方針ノ確定ハ之ヲ憲法會議ノ結果ニ見サルベカラス加ヘテ同政府カ聲明セル如ク果シテ非共產主義ヲ實行スルヤ否ヤモ亦憲法會議後ニ非ナレハ之ヲ知ル能ハサルヲ以テ帝國政府ハ同共和國ヲ承認セサルハ勿論同政府間交渉ヲ開始スルニ至ラザリキ然ルニ本年一月十八日知多政府外相「クラスノシヤヨコフ」ハ我が内閣外務大臣ニ對シ大要左ノ如キ提議ヲ電報ヲ來レリ

今や極東統一ノ事業完成シ極東共和國内ニ於テハ外國人ハ露國臣民ト同様ニ生命財産安全ヲ得ルニ至リ然ルニ日本軍ノ依然トシテ駐屯スルハ管ニ不當ナルヲミナシ却ツテ有害ナリ此際兩國間ニ平和關係ヲ齎ラズ爲メニハ
(一) 日本軍憲ガ共和國ノ内政ニ絶對不干渉ノ主義ヲ採ルヲ望ム
(二) 日本政府カ撤兵ノ期日ヲ定ムルヲ望ム
最モ必要ナリ而シテ共和國内ニ現在日本外交代表者存在セザルニ願ミ相互主義ニ基キ速ニ政治經濟關係ヲ結フノ目的ヲ以テ日本政府カ知多政府代表者ヲ東京ニ接受セムコトヲ希望ス
右ニ對シ帝國政府ハ何等回答ヲ爲ス所アラザリキ

第二 薩哈連漁業管理ニ對スル知多政府ノ抗議
黑龍江下流並黑龍江海灣ニ於ケル漁業ハ同方面ヲ占領セル帝國軍憲ニ於テ管理シ居リタルカ帝國政府ハ其後右管理區域ヲ擴張シ北樺太及「ラザレン」岬ヨリ「デカストリ」ニ至ル沿岸水域ニ於ケル漁業モ占領地域トノ關係上帝國軍憲ヲシテ管理セシムルゴトニ決定シ客年十二月十六日在浦潮地總領事ヲシテ其ノ旨當時ノ浦潮臨時政府ニ通告セシメタル處知多政府外務大臣「クラス」ノシテ「ヨコフ」ハ本年一月十八日發内田外務大臣宛電報ヲ以テ右ハ露國民ノ權利及領土主權ヲ侵害スルモノトシテ左記ノ抗議ヲ提出シ來レリ
極東共和國政府ハ在浦潮日本政務部長ヨリ舊浦潮政府外務部長ニ手交アリタル左記覺書ノ次第ヲ了承セリ
「本官ハ外務大臣ノ訓令ニ基キ薩哈連地方ノ漁業ニ關シ左ノ通り通牒スルノ義務ヲ有ス
黑龍江下流並黑龍江海灣「ラシゲル」其他ノ諸島ヲ含ムニ於ケル漁業ハ依然日本軍憲ニ於テ之ヲ管理ス
前項ノ地域ニ屬セザル北樺太及「ラザレン」岬ヨリ「デカストリ」ニ至ル沿岸水域ニ於ケル漁業ハ從來浦潮ニ於テ露國官憲ニ依リ管理セラレタル處爾今日本軍憲ニ於テ之ヲ管理ス
千九百三十年十二月十六日」

右ノ通牒ニ接シ前記漁業地域ヲ領轄スル極東共和國政府ハ露國人民ノ權利及露國ノ領土主權ヲ侵害スル日本政府ノ露國漁業強制管理ニ對シ茲ニ抗議ヲ提出ス
右ノ行為殊ニ最近ノ勝手ナル強制管理行為ハ明カニ露國ノ主權及領土權尊重ニ關スル日本政府果大ノ嚴肅ナル宣言ニ明白ニ違反シ且國際法ヲ無視スルモノナリ
帝國政府ハ之ニ對シテ何等回答ヲ發セザリキ
第三 露領沿岸ノ漁業權保護ニ關スル帝國政府ノ提案ニ對スル抗議
露國舊帝制時代ニ於テ日露漁業協約ニ依リ帝國ノ獲得セル露領沿岸ノ漁業權ハ露國革命後過激派又ハ之ノ類似ノモノノ賊恩ニ依リ往々侵害ヲ蒙ルニ至リタルモ浦潮臨時政府ハ之ニ對シテ何等妨遏手段ヲ執ラサルヲ以テ帝國政府ハ將來露國ニ正當政府樹立シ満足ナル保護ヲ我カ漁業者ニ與ヘ得ルニ至ル迄機宜ノ處置トシテ左記諸項ノ實行ヲ露國側ニ要求スルコトニ決セリ
第一 漁區借區料ハ之ヲ或ル期間内露國官憲ヲシテ特定ノ銀行ニ供託セシムルコト
第二 漁區表發布ノ際漁區競賣ノ最低價格ヲ公表スルコト
第三 日露漁業協約第十一條ノ規定ニ依ル航海證書其他漁業者ノ必要トスル諸證明ハ露西亞國領事館ノ發給ニ限ラス日本官憲ヨリモ發給シ得ルコト
第四 日本漁業者間及日露漁業者間ニ共同ヲ以テ船舶ヲ雇入レ露領沿岸ノ漁區ニ廻航シ得ルコトハ勿論從來經營セル漁區不落トナリタル場合舊漁區ニ殘置セル漁業用品其他ノ物件ヲ他ノ所ニ競落セル漁區ニ運搬シ得ベキコトヲ確認スルコト
第五 露國領水ニ於ケル日本國臣民ノ漁業ニ關スル權利並義務ハ日露漁業協約及附屬協定書ニ依ルヲ原則トスルモ河川及入江ニ於ケル漁業ニ關シテハ軍事上並土人及移民ノ生存ノ爲必要ノ場合ヲ除キ露國臣民ト同様之ヲ日本國民ニ開放ス

右決定ニ基キ在浦潮帝國總領事ハ客年十二月十七日以來浦潮沿海州廳ニ交渉を開始シ本年一月十七日右要望事項ヲ口上報トシテ同州廳ニ交付シ更ニ二月十四日漁區競買期日ノ延期ニ關スル我方意圖ヲ再ヒ口上書ヲ以テ通告スル所アリタリ然ルニ沿海州廳側ハ本件ヲ以テ前露國政府ヲ締結シタル漁業協約ニ變更ヲ加ヘムトスルモノニシテ到底地方廳ヲ解決シ得ベキ性質ノモノニ非スト爲シ知多政府ニ移讓シテ其ノ裁斷ヲ俟ツベトナレバ當時知多ニ於テハ憲法議會開會ノ用意ニ忙シセラレ其ノ開會ノ上ハ知多政府ハ政權ヲ同議會ニ引渡スヘキ際ナリシヲ以テ同政府モ本件ノ實質ニ觸レタル何等ノ訓令ヲ發スルコトヲ敢テ回避シタルモノナリ如ク然レトモ帝國政府ハ本件ニ關シテ他多迄モ浦潮側トハ交渉ニ依リテ解決シ之ヲ知多政府ニ移スモ無カラスシムル方針ヲ採リ本件ニ對スル回答ニ就キ再三浦潮側ニ督促スル所アリタルカ三月三日ニ至リ在浦潮知多政府外交代表者「ニコニコ」ハ風地帝國總領事ニ對シ左ノ如キ口上書ヲ提出シ來レリ

下名ノ外務省代表者ハ外務大臣ノ命ニ依リ極東共和國政府ノ名義ヲ以テ在浦潮日本帝國總領事ニ左ノ通り通告スルノ光榮ヲ有ス

一九一八年一九一九年及一九二〇年ニ發生シタル秩序紊亂ハ露國領土ニ於ケル露國民ノ主權ヲ全然無視シタル日本軍司令部ノ政策ノ效果タルモノトス極東共和國政府ハ一九二一年一月十七日及同年二月十四日日本帝國總領事ヨリ傳達セラレタル口上書ヲ一九二〇年十二月十六日附日本政務報廳書同シタル露國民ノ主權ヲ侵犯スルモノト認メ一九二一年一月十八日附抗議ヲ反撥ス

越エテ三月五日知多外務次官「ニコニコ」浦潮ニ來レリ前述ノ如ク帝國政府ハ當初本件ニ關シテハ知多側ト直接交渉ヲ爲ササルハ態度ヲ執リタルモノモ憲法議會開會ニ依リ極東共和國政府著シク擔荷ヲ負フヲ以テ爾後大體次第ニ依リテ我方從來ノ態度ヲ幾分轉換スルハ必要ヲ生ズルニ至リ三月十日以來帝國總領事ハ本件ニ關シ「ニコニコ」ト會見ヲ重ネタルカ「ニコニコ」ハ本件ヲ以テ撤兵等一般政治問題ニ關聯セシメ政治部長トハ問ニ交渉解決セムトハ意圖ヲ有シ其ハ態度極端ニ

ヲ曖昧ナリシモ我方ハ本問題ハ飽シ迄之ヲ他ノ政治問題ト分離シ總領事ノ權限ヲ以テ交渉スヘキト主張シ之ニ對スル回答ヲ促ス所アリタルカ三月十四日ニ至リ「ニコニコ」ハ帝國ノ要望ニ對スル回答ト先方ノ新ナル提議トヲ含ム口上書ヲ提出シ來レリ口上書ハ頗ル長文シテソナルカ前文ニ於テ日本軍ハ客年二月黒龍江下流及同海灣ニ於ケル漁業ヲ管理スルニ至リタル際其ノ理由トシテ界ケタル露國政權ノ同地方漁業管理ノ無能力ナルモノカ全ク根據ヲ有セズ以テ更ニ同地方漁業ノ管理區域擴張ニ關スル客年十二月十六日菊池總領事覺書ニ至リテハ何等ノ理由ヲ示サズ最も解放的ニ侵略的企圖ヲ顯露スルモノナルコトヲ指摘シ且本年一月十七日以前記要望事項ニ關スル口上書ニ所謂臨機ノ措置ト稱スル新要望ハ地方官憲ニ依リ一時效力ヲ負ハモラレ而モ改訂セラレザル協約ニ抵觸シ且通ニ其ノ範圍ヲ脱シ加之露國ノ利益及國威ヲ侵略スルモノニシテ漁場荒廢ノ爲メ日本人ヲ蒙リタル損害ニ對シル指摘ハ強硬ナル五箇條ヲ要望ト何等關係ヲキメザル所以ヲ嚴聲シタル後

- (一) 要望第一項ニ關シテハ極東露國人ハ主權ヲ有スル露國民トシテ自國內ニ於テ外國ノ監督ヲ認ムルコトヲ得ス
 - (二) 要望第二項ニ關シテハ漁區競買最低價格秘密主義ハ過去十二年間實行シ來レル所ニシテ之ヲ破ルコトヲ得ス
 - (三) 要望第三項ニ關シテハ日本駐在現任露國領事ハ正規ノ派遣官吏ニ非ズ從テ其ノ發給セル證書類ノ意義擔荷ヲ改ヘキニ付テハ日本政府ト同意見ヲ示シ日本政府ノ要望ハ實際上日露協約第八條ヲ削除セムトスルモノナルニ對シテ漁協約ヲ改訂ハ締約國ノ全權委員ノミ之ヲ爲シ得ヘキヲ以テ之ニ同意スルコトヲ得ス
 - (四) 要望第四項ニ關シテハ從來特殊ノ理由ニ依リ露國側ニ於テ一時の讓歩ヲ爲シ來レルモ本件ニ關シ日本政府ハ其ノ承認セサル「ニコニコ」政權ニ依據セルハ紳士的態度ヲ顯公ルコトヲ得ス
 - (五) 要望第五項ニ關シテハ知多政府ハ自國ノ境域內ニ於テハ舊露帝國日本トシテ條約ヨリ發生スル露國ノ權利義務ヲ繼承者ト自任シ居ル處本項モ亦日露漁業協約第一條ノ變更ヲ必要トスルモノニシテ之ニ同意スルコトヲ得ス
- トノ要望各項ニ對スル回答ヲ揭ゲタル後對策トシテ新ニ次々提案ヲ爲シ我方好意的回答ヲ要望セリ

- (一) 兩國ノ爲漁業協約ノ改訂ハ緊急ノモノタルヘク故ニ該協約ニ關聯セル問題解決ノ爲兩國代表者ヲ以テ特別會議ヲ至急召集スルヲ以テ時ヲ得タルモノト認ム
- (二) 協約ニ關係アル沿岸ノ一部ハ勞農政府ニ屬スルニ付其ノ代表者ヲ該會議ニ加フルヲ以テ時宜ヲ得タルモノト認ム
- (三) 然レトモ就實切迫シ此止遷延スルニ於テハ日露漁業者ニ不利ナルベキヲ顧慮シ右會議終了迄ハ兩訂約國ニ取リ協約ヨリ生スル一切ノ權利義務ヲ完全ニ持續スルニ付條件ノ下ニ協約カ自働的ニ效力ヲ有スルモノト認ムルニ異議ナシ
- (四) 外國軍隊干渉及占領ノ爲招致セラレタル太平洋沿岸ノ不安定ノ狀態ニ顧ミ極東政府ハ日本漁業者ノ利益ノ爲ニ一面該沿岸カ漸次平時ノ狀態ニ恢復スルカ爲メ條件ヲ提議シ他面日本漁業者ノ略取セル協約國外ノ漁場ハ日本軍ニ於テ之ヲ解放シ日本軍警備ハ之ヲ撤廢シ漁區ハ極東政府ノ代表者ニ之ヲ還附スルベキモノト提議ス
- (五) 協約國內ノ領土ヲ占領セル日本軍ハ之ヲ撤廢シ舊狀ニ恢復セシムルヘシ極東政府ハ自ラ漁業者ノ生命財産ノ安全ヲ確保ス
- (六) 露國領土ニ外國軍隊駐屯及出動スル效果見ラレバ日本漁業者ノ露國住民及其ノ一部分タル露國漁業者ノ損害ニ關シテハ聯合軍全部撤退ノ後兩國代表者ヨリ成ル特別委員會ヲ附スルヘシ
- (七) 本年漁期日本漁業者ノ安全保障ニ關シテハ正記如ク日本軍撤退シ全領土ニ於ケル監督權カ院全ニ極東政府ニ移轉スルト共ニ其ノ安全ヲ確保シ得ヘシト雖日本漁業者ニ對シテハ今同ノ就實ニ際シ臨時讓歩ヲ爲スル意ヲ兩國代表者
- (八) 兩國政府ノ常設的全權代表者及領事公館ニ關スル問題ハ姑ラク措クモ現時日本政府ハ極東共和國ニ其ノ領事及使節ヲ駐在セシメ居ルニ顧慮シ極東政府ハ漁業協約施行ニ關聯セル事務手續履行ヲ爲スル臨時代表者ヲ日本ノ諸港ニ派遣スルノ意思ヲ有ス
- (九) 一月十七日口上書第四項漁場間協同通航及番人殘置ニ關シテハ本年ニ限以テ之ニ同意スルモノナラズ

右口上書ニ表ハレタル知多政府ノ態度ヨリ察スルモ本件ニ關シテハ撤兵其他ノ政治問題ト關聯セシメテ交渉セムトスル意嚮明カニシテ帝國ノ提議ニ對スル知多側ノ誠意ヲ認ムルヲ得ザリシヲ以テ帝國政府ハ本件ニ關スル交渉ヲ打切り露領沿岸漁業ニ關スル既得權維護ノ爲ニハ機宜ノ手段ヲ講スルニ決シタリ

第四 撤兵問題ニ關聯スル知多外務次官來浦

本年二月下旬知多ニ於ケル憲法會議開催期近クヤ日本ハ其ノ開會式ニ其ノ代表者ヲ派遣スベシトノ風説喧傳セラレニ時知多政府ハ勿論諒ラス世上ノ注意ヲ喚起シタリ帝國政府カ右ノ如キ措置ヲ執ルコト無キハ勿論ナルモ浦潮派遣軍司令部ヨリハ知多方面ノ政情觀察ノ目的ヲ以テ幾ニ三毛少佐ヲ派遣シ更ニ一月二十五日倉重大尉ヲシテ隨員七名ヲ伴ヒ哈爾濱經由知多ニ向ハシメタリ同行ニハ日本商人五名同伴シタルカ在浦潮知多代表者ヲシテトシハ之ニ對シテ證明書ヲ與ヘ且沿道官憲ヨリ便宜供給方取計ヲ等好意ヲ示セリ

當時日本軍撤退ニ關スル風説頻リニ傳ハリシガ知多外務次官ニセウニ二月二十四日倉皇トシテ浦潮ニ向ヒ三月四日到著セリ其ノ來浦ノ目的ハ日本側ト撤兵問題ヲ交渉セムトスルニ在リタルモノハ如ク同七日浦潮派遣軍司令官及政務部長ヲ來訪シ

極東共和國民ハ日本軍隊カ一日モ早く撤退セムコトヲ熱望ス日本政府ニシテ撤兵ノ交換條件トシテ何等カ具體的ニ申出ツルニ於テハ我方ニ於テ研究シテ應諾ノ能否ヲ決スベシ又本件交渉ノ内容ハ國際禮讓ニ從ヒ嚴重ニ秘スベキコトヲ聲明ス余ハ豫備協定ニ署名スルノ權限ヲ與ヘラレアリ云々

ト申出タルカ軍司令官ハ之ニ對シテ日露親善ハ切ニ希望スル所ナルモ斯ル件ニ關シテハ交渉開始ノ權限ヲ有セサルヲ以テ極東共和國政府ニシテ其ノ必要ヲ認ムルニ於テハ直接日本政府ト交渉スルベキ旨回答セリ

第五 「ダウビ」河谷ニ於ケル日本軍行動ニ對スル知多政府抗議

之ヨリ先哈爾濱方面ノ露軍約二百名南下シ「ダウビ」河谷ニ來リ更ニ「アステ」方面ニ南進シアリトノ驛報ニ接シタル第十

三師團其大員爲確ル爲步兵二個大隊ヲ偵察ニ向ハシメ同隊ニ二月二十一日ヨリスガヤビヲ出發シ「タチヤノフカ」
「ヤコウレフカ」等ヲ經テ「ダウビ」河谷ニ到リ二十五日歸還セルカ右行軍ノ際日本軍ハ所定ノ三十吉米突地帯ノ境域ヲ
越テテ進軍シ「エラゲネフカ」驛ノ東方六十露里ニ位セル「ヤコウレフカ」同村ノ東五露里ニ在ル「ボクロフカ」及「アス
ーシメイ」ヤコウレフカノ南村ノ中間ニ在ル「スイソソ」ニフカヲ占領セリト爲シ三月三日附テ以テ知多外相「クラス」シ
テヨコフ「ヨリ我カ外務大臣ニ對シ右日本軍ノ行動ハ何等理由ナク徒ラニ事態ヲ紛糾セシムルモノナリトシテ抗議ヲ提出
シ日本軍屢次ノ宣言ヲ此際實現シテ撤兵ヲ斷行セムコトヲ要望シ來レリ右抗議ハ三月八日在浦潮「ツニツトリ」ノ手ヲ經
テ我外務大臣ニ電報セリタルカ其内容中左ノ如キ一節アリ
極東總領ニ於ケル全露國民ノ代表者カ憲法會議ニ於テ極東共和國ノ建設ニ全力ヲ傾注セル時露領極東統一事業ノ完成セ
ル時日本軍カ撤退セル各地方ニ秩序ト平和ヲ維持セラルル時ニ際シテ既ニ嚴然タル數回ノ宣言ニ依リ一度撤兵シタル地
方ヲ新ニ日本軍カ占領スルハ日本政府並ニ軍憲ヲ發ビル宣言ニ全ク背反スル不法行爲ナリ
極東政府ハ外國干涉ヲ平和的ニ回避シ且極東總領ノ露國人ト日本國民トノ間ニ最友好ノ關係ヲ齎ラサムトシ全力ヲ舉ゲ
テ努力シツツアリ然ルニ極東政府カ露國領土内ニ於ケル日本軍ノ敵對行動ニ關スル悲慘ナル回想ヲ國民ハ記憶ヨリ交際
セムトスル努力モ若シ日本軍カ既ニ撤退セル地方ニ再進軍セムトスル政策ヲ繼續スルニ於テハ遺憾ナカラ何等ノ功ヲ
奏セサルニ至ルヘシ云々
右抗議ニ對シテハ帝國政府ヨリ何等回答ヲ發セサルモ浦潮派進軍ヲシテ適當ノ方法ヲ以テ右日本軍ノ行動ハ露軍カ協定ニ
反シテ南下シ我軍ヲ脅威セムトスル情報ヲ接シタルヲ以テ偵察ヲ爲メニ爲セルモノニシテ占領ノ目的ニ非サル旨ヲ發表セ
シムルニ止メタリ

第六 「グロヂニウ」事件ニ關スル知多政府覺書

越テ三月十日浦潮滞在中「ヨセウ」ニ「フ」ハ菊地政務部長ヲ來訪シ三月七日附我外務大臣宛「クラス」ノシテヨコフ「ヒ」覺

書ヲ手交セリ該覺書ハ「グロヂニウ」附近ニ集中シツツアル「セメ」フニ殘黨ノ犯罪行爲益猖獗ナルニ願ミ其ノ武裝ヲ解除シ
秩序ヲ確立セシムル爲メ露國官憲ヨリ同地方ニ民警ヲ送ラムト試ミタルコト一再ナラザリシモ日本軍カ同地ニ何等武裝團
體存在ノ事實ヲ否認シ常ニ問題ノ解決ヲ回避シ來レルコトヲ非難シ此際日本軍ニ於テ「セメ」フニ軍ヲ援助セサルコト並其
ノ駐屯ノ臨時ニシテ早晩撤退スヘキ計畫ナル旨ノ聲明ヲ爲サムコトヲ要請セルモノニテ要領次ノ如シ
極東共和國政府ハ誠意ヲ以テ日露兩國民間ニ親善關係ヲ結ハムコトヲ努メ此ノ目的ノ爲メ日露兩國民間ニ相互不信ノ念
ヲ生セムトスル計畫ヲ除去スルノ必要アリト思考ス日本軍憲ニシテ事實所謂「セメ」フニ軍其他ノ反革の分子ヲ援助セシ
又露國政府ニ對スル反抗的行爲ニ關シテハ何等之ヲ交渉ヲ爲シ居ラス將又日本軍自身ニ於テモ共和國ト關フモノニアラ
スト聲明セラルルニ於テハ前記ノ如キ計畫ハ疑モナク除去セラレ好マシカラサル風評モ直ニ終熄スヘキナリ
又日本軍ノ駐屯ハ勿論臨時ナルコトヲ明シ且極東統一並憲法會議事業ノ存在セルニ鑑ミ遠カラズ撤兵ヲ斷行スル計
畫ナル旨表明セラル、ニ於テハ住民ハ満足ヲ以テ之ヲ迎フヘシ日本軍憲代表者ノ明白確實ニシテ誠意アル言明ハ即共和
國カ其ノ國民ノ腦裏ヨリ豫テヨリ抱ケル耻辱ノ念ヲ去ラジメ誠意アル親善關係ヲ定ムルニ努力シツツアル事業ヲ授クル
モノト謂フヘキナリ云々

第七 知多憲法會議ヨリ本邦視察員派遣ニ關スル照會

上述ノ如ク知多政府ハ三月二十六日米國政府ニ對シ通商關係ヲ開始シ代表者ヲ交換スルヲ希望セル通牒ヲ發シタルカ四月
一日附電信ヲ以テ知多外相ヨリ我カ外務大臣ニ對シ本邦經濟狀態ノ視察並通商開始ノ準備トシテ知多憲法會議ヨリ主トシ
テ農民團議員ヨリ成ル視察員ヲ本邦ニ派遣シ度キニ付便宜供與方要請シ來レリ帝國政府ニ於テハ之カ許否ニ關スル利害ヲ
考慮シテ特ニ回答ヲ爲スニ至ラザリキ

第八 憲法會議ノ對世界宣言並對日本宣言覺書

知多ニ於ケル憲法會議別ニ詳述スヘキカ如ク三月二十二日會議ニ於テ議會宣言及世界各國政府並國民ニ對スル憲法議

會宣言ヲ議決シ越ニテ二十四日ノ會議ニ於テ日米支三國ニ對スル宣言ヲ可決シタルカ三月三十日ニ至リ在浦潮「コゼウ」
コフ」ハ菊池政務部長ニ對シ公文ヲ以テ右三宣言（但シ對外宣言ニ付テハ對支對米ノ分ヲ除ク）ヲ交付シ來レリ之ト同時ニ
在北京知多政府副代表者「アカリヨフ」ハ「ユーリン」ノ使者トシテ我公使館員ヲ來訪シ右對世界宣言ヲ交付シ更ニ同十一日
同地知多代表者附二等書記官「カツツ」ハ「ハ」再ヒ同館員ヲ訪問シテ前記對日本政府宣言ヲ記セル覺書ヲ交付セリ
右帝國政府ニ對スル覺書ノ概要ヲ見ルニ冒頭ニ日本西伯利出兵ノ目的トスル所カ最初「チネツク」軍救援ヨリ次イテ程ナク
勞農軍ノ主腦ニ獨塊人アリトノ理由ニ代ヘ後更ニ滿鮮平和ヲ確保ノ必要ヲ主トスルニ至リタリト云ヒ客年三月三十一日聲
明ノ内容ヲ引キ次ニ露領ハ日本ノ占領ニ歸シ沿海州ニ亦事實上日本ノ治下ニ在リ食料其他ノ物資及貨車ノ供給絶ニ該共和
國ノ他ノ部分モ爲メニ禍ヲ受ケツツアルノ狀ヲ敘シ進ニテ漁業問題ニ關スル日本總領事ノ沿海州官憲宛最近ノ書面ハ偶々
以テ該地方ノ實狀ト日本ノ聲明トノ遲延アルヲ示スニ足リ客年四月四日及五日ノ事件其他日本軍隊駐屯ノ犠牲トナリタル
モノノ例少カラスト爲シ共和國國民ハ侵略ヲ期セズ兩國國民ノ平和關係ヲ樹立増進シ兩國利益ヲ爲メ通商關係ヲ再開セムト
ヲ希望スルノミ外國ノ干涉ヲ免レン地方ノ人民モ日本軍隊ノ駐屯ニ依リ不安ヲ感シツツアルト述ヘ最後ニ日本政府カ先ツ
以テ其ノ軍隊ヲ撤退シ以テ兩國國民親善ノ基礎ヲ樹テラレムトヲ希望スト爲シ日露兩國ノ密接ナル關係ヲ敘シ且ツ近キ將
來ニ於テ日本政府カ該共和國ヲ承認シ之ト公式ノ關係ニ立ツニ至ラムコトヲ期待スル旨ヲ記シ憲法會議々長「シーロフ」之
ニ署名セリ

第九 尼港再占領、漁區競買、浦潮事變、デカストリ「占領等ニ關スル知多政府抗議」
四月二十六日在浦潮「コゼウ」ハ菊池政務部長ヲ來訪シ知多外務大臣代理「スグイルスキ」發内田外務大臣宛四月
二十一日附書信ヲ寄セ外務大臣ニ轉達方依頼スル所アリ右書信ハ（一）薩哈噠軍司令官ノ尼港及外數箇所派兵ニ關スル本年
三月二十一日附聲明（二）三月三十一日浦潮政變運動ニ對スル日本軍ノ態度（三）薩哈噠軍ノ漁區競買ニ關スル在浦潮日本
總領事ノ聲明（四）最近ノ日本軍ノ「デカストリ」上陸等ニ對スル知多政府ノ抗議書ニシテ其ノ要領左ノ如シ

- 一、一九二一年三月二十一日日本薩哈噠軍司令官ハ一九二〇年七月三日附日本政府宣言ニ關聯シ尼港「デカストリ」マ
「ゴ」ソフイスク其他ノ地點ヲ占領シ平和及秩序ノ維持ノ爲同地方ニ民政ヲ布クヘキ旨ノ聲明ヲ爲セリ
- 二、三月三十日夜浦潮ニ於テ反革命派暴徒カ政府及國民議會ニ對シ攻撃ヲ加ヘントシタル際日本軍司令官ハ叛徒ノ行動
ヲ看過シタルニ拘ハラズ露國民並外國民ノ生命財產ノ防護ニ任シツツアル民警ノ武裝ヲ解除セリ
- 三、在浦潮日本總領事ノ聲明ニ據レハ薩哈噠日本軍政署長ハ二月十九日ヲ以テ露領漁區ノ競買ニ關スル布告ヲ爲セリ
- 四、最近數日日本軍ノ新部隊ハ浦潮ニ到著シツツアリ
- 五、四月十九日日本軍ハ「デカストリ」ニ上陸シ無線電信局ヲ設置シ露國電信局ニ監察官ヲ派シ地方住民ニ對シ日本官憲
ノ特別ノ許可ナクシテ露國官憲ト通信スルコトヲ禁止セリ
- 一九二〇年七月三日ノ日本政府宣言後九箇月ニシテ日本軍カ再ヒ前記地方ニ上陸シテ民政ヲ布ケルコト露國政府ノ民
警ノ武裝ヲ解除シタルコト日本軍カ反革命派叛徒ニ庇護ヲ與ヘタルコト露領漁區ニ對シテ擅ニ競買ヲ定メタルコト及日
本軍ノ新部隊カ浦潮ニ上陸シツツアルコト等凡テ是等ノ事實ハ知多ニ於テ憲法會議カ極東共和國完成ノ爲ニ努力シツ
ツアル際ニ起レルモノナリ斯クノ如キ日本軍ノ行爲ハ極東住民ヲシテ日本軍ノ侵略的意圖ヲ疑ハシメサルヲ得ス若シ
日本政府ニシテ一九二〇年七月三日ノ宣言ニ誠實ニシテ之ヲ以テ正當政府ノ樹立ニ至ル迄ノ臨時的措置ナリト爲スニ
於テハ今ヤ全人民ノ意思ニ依リ選出セラレタル合法ナル露國政府樹立シテ極東露國ニ於ケル全權ヲ掌握スルニ至リタ
ルヲ以テ當ニ露國人民ノ主權ヲ復活スヘキ好機ナリ
- 極東共和國政府ハ前記ノ如キ露國人民ノ主權ヲ侵害スル日本軍ノ行動ニ對シテ嚴重ナル抗議ヲ提出スルト共ニ日本政
府カ其ノ嚴肅ナル從來ノ宣言及保障ニ矛盾スル政策ヲ遂行スルハ決シテ日露兩國國民ノ親善關係ヲ鞏固ナラシムル所以
ニ非サルコトヲ指摘セムト欲ス日露兩國國民ノ等シク渴望シ全世界モ亦期待シツツアル安定ニシテ正常ナル狀態ヲ招徠
セムト欲セハ露國人民ノ主權ヲ侵害スルノ行動ヲ廣シ日露兩國相互ノ必要及利益ニ關シテ誠意アル友好的交渉ヲ開始

第二章 極東國民憲法會議

第一節 會議召集

大正九年十月二十八日ヨリ「チタ」ニ開カレタル極東政權統一會議ハ同月二十九日極東共和國政府ノ組織及極東國民憲法會議ノ召集ヲ議決シ十一月十日「クラスノシチヨコフ」以下五名ノ臨時最高幹部就任シテ全政權ヲ掌握シ極東共和國ノ成立ヲ見タル上同月十一日終了シタリシカ翌十二日政府命令ヲ以テ首相兼外相「クラスノシチヨコフ」以下共產黨一味ノ内閣員任命セラレズ如クニシテ表面上勞農政治ヲ排シ民主主義ヲ標榜スル新政府ノ成立ヲ見ルニ至レリ
新政府ハ憲法會議選舉委員會ノ決議ニ基キ極東國民憲法會議開會期ヲ大正十年二月二十五日ト定メ一月九日ヲ以テ憲法會議員ノ選舉ヲ開始セリ選舉ノ結果各地共非共產黨側ニ棄權者頗ル多ク且其ノ當選者數過少ナルノ現象ヲ見タリシカ之レ非共產黨側カ該選舉ニ對シテ熱心ヲ缺キ憲法會議ノ將來ヲ輕視シタルト共ニ其ノ内部ニ於テ結束ノ薄弱ナリシヲ示スモノニ外ナラス

一月二十五日ヲ以テ「チタ」ニ開會ノ豫定ナリシ會議ハ各地ヨリノ議員ノ來集渺々シカラサリシ爲メ順延ヲ重ネタリシカ二月十二日ニ至リ參集議員ノ數法定々足數タル三百二十五名以上ニ達シタルヲ以テ同日午後七時ヲ以テ開會セリ斯クノ如キ延引ヲ見ルニ至リシ原因ハ二面議員ノ參集遅々タリ殊ニ非共產黨側ノ議員カ身邊ノ危險ヲ憂惧シテ容易ニ出向カサリシニ在リト雖其ノ裏面ニ於テハ共產黨カ此ノ期間ヲ利用シテ特ニ農民團ノ懷柔ニ努メタル魂膽ノ伏在スルハ蔽フ可ラサル所ナリ

來集議員ノ黨派別ヲ見ルニ次ノ如シ

選舉總數
「チタ」來集者

四三七
三八六

二三

内 閣	二六六
共 産 黨	九 九
準 共 産 黨 (所謂共産黨同情者)	二 四
社 會 革 命 黨	二 〇
社 會 革 命 黨 少 數 派	一 三
社 會 革 命 黨 西 比 利 亞 派	六
國 民 社 會 黨	三
立 憲 民 主 黨 (カデット)	二
不 明	五
無 所 屬	二 四
内 農 民 黨	一 八 三
「フリヤード」族	一 三

上表中來集セサル議員四十六名中大多數ハ非共産黨ニ屬スルモシニシテ上述ノ如ク多クハ共産黨ノ壓迫ヲ惧レテ出席セサルシモノナリトス

第二節 會議開會

憲法會議ハ上記ノ如ク二月十二日午後七時ヲ以テ第一回議事ヲ開キタルカ出席議員數三百五十一名ニ及ヒ劈頭「クラスノシチヨコフ」ハ政府ノ名ニ於テ開會ヲ宣言スルト共ニ大要次ノ如キ演說ヲ試ミタリ

露國民ハ革命ニ依リ專制政體ヲ脱シ内敵ヲ制シタルニ計ラスモ外國干涉ノ紛糾セル露國氣中ニ投セラレタリ然レトモ吾

人ハ資本主義帝國主義ノ現状及複雜ナル國際的關係ヲ顧慮シテ義ニ自覺的ニ内爭ヲ捨テ國民一致以テ極東ノ獨立ヲ計リ萬難ヲ排シテ遂ニ本會議ニ到達セリ母國其他ノ外國ヨリ極東ヲ獨立セシムルコト其ノ政權ヲ民主的ナラシムルコト勞農露國ニ對スル外國干涉ノ排斥及工業ノ復舊等ハ既ニ統一會議ニ於テ宣言シタル如ク我カ緩衝國政府施設ノ根本義ニシテ本會議事業ノ基礎タルヘキヲ信ス政府ハ諸君ニ其ノ事業ノ報告ヲ爲シタル上憲法會議ニ其ノ政權ヲ讓ラムトシ諸君ノ處置ヲ俟ツモノナリ云々

次イテ議長ノ選舉ヲ行ヒタルニ前黑龍代表員タル共産黨「シロフ」當選シ更ニ幹部十二名ノ選舉ヲ行ヒタル後閉會セリ當選幹部次ノ如シ

副 議 長	「ボロダフキン」	(農 民 團)	前黑龍「バルチツン」隊長
同	「クラルク」	(共 産 黨)	前沿海州交通部長
同	「マンスウエトフ」	(社 會 革 命 黨)	前沿海州國民議會議長
同	「ダンビノフ」	(「フリヤード」族代表者)	
同	「レホフ」	(未 詳)	
同	「フヨドコフ」	(未 詳)	
同	「スホーブマン」	(共 産 黨)	
同	「ボロジン」	(農 民 團)	
同	「ヤチエンコ」	(農 民 團)	
同	「ニキーホロフ」	(社 會 民 主 黨)	元浦潮政權労働部長
同	「キルギゾフ」	(未 詳)	
同	「ボロウイツキー」	(未 詳)	

憲法會議ノ開會ニ際シテ各方面ヨリ祝電ヲ寄スルモノ多數ニ上リシカ就中沿海州側ヨリハ長文ノ電報ヲ發シ本會議ヲ以テ極東地方ノ鎮定、政體ノ確定、國民經濟ノ復興及外國輿論ノ脱却ニ對スル第一保障トシテ歡迎スル旨並ニ政府カ極東共和國政治ノ統一ニ努力スルト同時ニ憲法會議カ第二着手トシテ母國トシテ體面密接關係ノ制定ニ努ムルヲ期待スル旨ヲ表明スル所アリタリ

第三節 各黨派議會宣言案

第二回議事ハ二月十四日出席議員三百二十三名ヲ以テ開カレ

(一) 臨時議事規程制定

(二) 臨時委員選舉

(三) 議會令草案委員選舉

ノ三項ヲ附議シタルカ第一件ニ關シ共產黨側ノ原案ニハ『議會幹部ハ議事日程中必要ノ場合議員ニ豫告スルヲ以テナクシテ議事ヲ追加スルコトヲ得』トノ條項アリタルニ對シ非共產黨側ハ少數派ノ利益擁護上反對ヲ唱ヘ追加議事ニハ豫告ヲ要スル旨ノ訂正ヲ主張シタルモ大多數ヲ以テ否決シ去ラレ原案ハ全部通過ヲ見タリ又第二件ノ臨時委員十九名及第三件ノ草案委員八名ハ公開投票ニ依リ何レモ滿場ニ致リ以テ當選セリ

第三回議事ハ二月十七日ヲ以テ開カレ先ツ共和國憲法草案委員會宣言案委員及外交委員ノ選舉アリタル後農民團右派、無所屬農民勞動派「フリキヤ」トシテ、共產黨及社會革命黨ノ各派代表者ハ順次ニ立チテ其ノ議會宣言案ヲ朗讀セリ(社會革命黨ノ宣言案ハ二十二日發表セラル)

是等各派ノ宣言案ヲ通觀スルニ

(一) 勞農露國ニ密接ナル關係ヲ持シ

(二) 外國ノ駐兵及內政干涉ノ排斥

(三) 民主主義國家建設

(四) 四民平等

(五) 生命財產ノ不可侵、集會結社言論信教ノ自由

(六) 政教分離

(七) 義務教育

(八) 政治犯人ノ大赦

(九) 二年兵役

(一〇) 累進所得稅

(一一) 私有財產制ノ保障

(一二) 土地國有、國家監督ノ下ニ於ケル營業ノ自由

(一三) 『モンセツシヨ』ニ依ル外資輸入

(一四) 隣國トノ親善關係

(一五) 死刑及體刑ノ廢止

(一六) 特別司法制度ノ廢止、統一裁判所ノ設立

等ノ諸點ニ於テハ何レモ其ノ主張ヲ「ニスルモ各派ニ於テ特ニ力説セル點ヲ舉クレハ次ノ如シ

(一) 共產黨

(イ) 各機關ノ合議制

(ロ) 學校ハ十七歳ヲテトス

- (ハ) 軍隊ニハ政治及軍事ノ「エミサール」及「コンミサール」ヲ置ク
- (ニ) 人民保險國營
- (ホ) 土地國有
- (ヘ) 自然富源ヲ個人ニ所有セシメス
- (ト) 「コンセツション」ニ外國守備兵ヲ置キ又ハ之ヲ外國政府ニ賣渡スコトヲ禁ス
- (チ) 企業經營、利權割讓、外資輸入等ノ問題ノ決定ニ勞働者ヲ干與セシム
- (リ) 最低賃銀確定
- (ヌ) 勞働者ニ對スル養老保險其他ノ保護
- (ル) 司法制度ニ選舉制ヲ採ル
- (三) 勞働農民團
- (イ) 人民保險國營
- (ロ) 十八歳以上五十五歳ノ者ハ勤勞ノ義務ヲ有ス
- (ハ) 政府ハ農具供給、農民救恤、農業獎勵ヲナス
- (ニ) 商工農業八時間勞働制
- (ホ) 政府ヲシテ農民政府タラシム
- (ヘ) 人民代表機關ハ常設ノ要ナシ
- (三) 社會革命黨
- (イ) 軍隊ハ時々一部動員ヲ行ヒ素質ノ改善ヲ計ル
- (ロ) 鑛山鐵道、航運ヲ國營トス

- (ハ) 金貨本位維持
- (ニ) 人民代表機關存續ノ必要ヲ認ム
- (ホ) 地方制ハ自治トス
- (四) 無所屬農民及勞働者團
- (イ) 特定團體ノ優越ヲ認メス
- (ロ) 軍隊幹部ノ專制ヲ排ス
- (ハ) 人民ノ財物納付ハ秩序回復ヲ待チテ廢止ス
- (ニ) 土地問題ハ大體ニ於テ共產黨ト同意見ナリ
- (ホ) 移民ハ地方官憲ノ許可ヲ要ス
- (五) 「フリヤード」蒙古族團
- (イ) 同族ノ獨立自治ヲ認ムルコト
- (ロ) 同族ノ居住地域ヲ定メ露國民ノ移住ヲ許サス
- (ハ) 同族ノ外國トノ自由直接取引
- (ニ) 同族ノ商工業ハ自治ニ委ス

第四節 政府信任討議

二月二十二日ノ第四回議事ニ於テ「クラスノシチヨコフ」ハ四時間ニ渉ル政府報告演説ヲ試ミ極東共和國政府設立ノ沿革、農露國並諸外國トノ國際關係及外國干渉ト國民ノ自由ニ對スル奮闘ノ經過ヲ詳説シタルカ外交ニ關スル陳述ノ概要ヲ見ルニ次ノ如シ

(一) 日本ニ對スルモノ

日本政府ハ西伯利占領ノ目的ハ自國臣民ノ生命財産ノ保護ニ在リト云フモ殺人強盜カ占領地方ニ頻發シツツアル事實ニ依リテモ其ノ理由ナキヲ知ルヘシ吾人ハ平和ヲ秩序ヲ欲スルモ外國軍隊ノ駐屯スル限リ地方所在ニ於ケル不秩序ニ對スル責任ヲ負ハサルヘシ日本ノ露領漁權擴張ニ關シテハ吾人ハ全領海等ヲ支配スルニ至リ初メテ治安維持ノ保障ヲ爲シ得ヘシ蒙古ニ於ケル「ウングレン」ノ暴舉ハ滿洲及「ゴロデコウ」地方ノ敗殘者ト聯絡アリ或者ノ後援ヲ受ケツツアリ吾人ハ我領土ヲ外國干渉ヨリ自由ナラシムルノ意アルコトヲ表明スルノ義務アリ

(二) 支那ニ對スルモノ

露支兩國ハ友好關係ニ在リ殊ニ「チタ」政府承認問題ニ對シ支那ハ大イニ好意ヲ有スルモ聯合國トノ關係上單獨ニ之ヲ爲シ得サル事情アリ本日(二十一日)支那代表者トノ間ニ通商開始並滿洲里國境開通ニ關スル協商成ルルカ東支鐵道及黑龍江並蒙古ノ問題ニ關シテハ鐵道租借期限未了ナルヲ以テ露國ハ自己ノ權利ヲ主張スルモ治外法權的裁判及郵便ト帝政時代ノ舊侵略主義ハ之ヲ拋棄スヘシ又黑龍江ハ露支兩國國民ノ所有ニ屬スルヲ以テ他國ノ權利ハ之ヲ認メス

(三) 米國ニ對スルモノ

米國ハ對露政策トシテ露國ノ領土保全、不分割主義ヲ保持スル限リ他國ノ極東占領ヲ默過セサルヘシ極東共和國ハ「ウエルフネ」時代ニ米國ニ對シ自己ノ計畫ヲ報シタルモ之準備行爲タルニ過キサレハ本議會ハ正式ニ日本ノ占領ニ關シ米國ニ對シテ質問セサルヘカラス蓋シ日本軍ハ米國ノ招致ニ依リ來リタルモノナルニ米國ハ今ニ至ルモナホ出兵ニ關スル協約廢棄ヲ宣言セサルノミナラス現ニ自ラ鐵道委員會ニ參加シ日本占領軍ト行動ヲ共ニシツツアリ本議會ハ斯カル事態殊ニ自由ナル國民ノ内政ニ干渉セサル事ヲ屢々聲明セル米國ニ對シテ抗議セサルヘカラス

同演說後議長「シイロフ」ハ院內各派協議會ニ於テ決定セル左記ノ決議案ヲ朗讀シ滿場一致ヲ以テ之ヲ可決シタリ

「獨立確定ニ關スル憲法會議ニ關シ議會ハ各派團體ノ宣言ヲ聽取シ現極東露國國民ノ各團體階級代表者カ一致シテ外國干渉

ヨリ解放セラレタル獨立の共和國存立ノ必要ヲ論シタルヲ認メ本共和國ノ根本法ヲ草案シ宣言其他之ニ關スル草案ヲ追々提出スヘキコトヲ委員會ニ委託ス

右政府ノ施政報告ニ對シ三月八日ノ會議以後九十ノ兩日及十四日ノ四日ニ涉リテ批判演說行ハレ左右兩黨間ニ激烈ナル論戰交換セラレタルカ此ノ間ニ於テ社會革命黨右派社會民主黨(「シシニビキ」)國民社會黨及無所屬民主黨ノ各派代表議員ハ交々起テ

(一) 共產黨カ橫暴ニシテ選舉言論ノ自由ヲ抑壓シタルコト

(二) 領内ノ狀態全ク改善セラレス政府ノ對農民及對市民政策失敗セルコト

(三) 外交常ニ失敗シテ對外關係全ク改善セラレサルコト

(四) 政府カ偏狹ナル黨派的政策ヲ弄シ地方政府ト協調ヲ保タサルコト

(五) 議會ト政府カ二重主權ノ弊ニ陥リツツアルコト

等ヲ指摘シテ痛烈ニ現政府ノ失敗ヲ批難シ或ハ之ヲ以テ歐露勞農政府ノ第二班タルニ過キスト罵倒シ或ハ之ヲ監督スルカ爲メニ須ラク國民ノ代表機關ヲ設置セサル可ラスト叫ビ政府並ニ共產黨ヲシテ殆ント顔色ナカラシメタリ之ニ對シ共產黨及所謂共產黨同情者タル農民團多數派ハ(一)政府カ短日月間ニ能ク勞農ノ自覺ニ依ル民主主義ノ建設ニ成功シタルヲ賞讃シ(二)共產黨カ銳意農民保護ニ盡力シタル功績ヲ多クシテ政府ノ辯護ニ勉メ且此ノ際各派ノ間ニ徒ラニ論難攻撃ヲ交換スルヲ避ケ小異ヲ捨テテ大同ニ就キ協力シテ共同目的ニ向テ邁進スヘキヲ勸説スル所アリタルカ各派論戰應酬ノ間議場ノ喧嘩紛擾往々甚シク就中十日農民團多數派ノ「リホフ」ナル者政府辯護ノ演說中「シシニビキ」及社會革命黨特ニ其ノ滿洲派カ反革命的運動ニ關聯シテ政府ノ不信任ヲ助長シタリト非難ニ言及スルヤ右黨側ハ一齊ニ起テ之ニ妨害ヲ加ヘ遂ニ左右兩黨間ニ爭鬭ヲ生シ爲メニ輕傷者數名ヲ出サシ至レリ、右批判演說ハ徒ラニ憲法會議ニ於ケル左右兩翼間ノ不融和ト意見ノ懸隔トヲ曝露シ將來ノ妥協ニ對シ悲觀的印象ヲ遺シタルヲミシテ十四日終了シタルカ非共產黨側ハ之ヲ以テ共產黨

一味タル多數派ノ橫暴ニ職由スルモノトシテ非議シ政府黨ハ之ニ反シ勉ミテ樂觀の見解ヲ誇張シ徒ラニ感情ニ趨ルコトナク須ラク冷靜ト忍ミトヲ持スルヲ必要トスル所以ヲ力説セリ

次イテ三月十六日政府ノ施政報告ニ對シテ決議文ヲ採決ヲ行ヒタルカ「メシシニヒキ」社會革命黨兩派ハ「クラスノ」政府ノ内外政策ノ失敗ヲ指摘シ眞ノ民主政體ヲ實現スルカ爲メニハ國民議會ニ對シ責任ヲ有スル政府ノ樹立ヲ必要トスルコト及現政府ハ直チニ政權ヲ憲法會議ニ讓渡スヘキコトヲ要求スル政府不信任ノ決議案ヲ提出シタルモ全員ノ約六分ノ一ノ賛成ヲ得タルノミニシテ否決セラレ次ノ如キ共產黨ノ政府信任案ハ全員三百十二中二百二十九ノ大多數ヲ以テ可決セラレタリ

「政府ハ内外困難ノ局ニ當リ能ク「チタ」統一會議ヲ決定セル各州統一ノ憲法會議ノ召集、州權擁護及隣邦トノ國交等諸問題ヲ遂行シタルニ依リ從來ノ行爲ヲ是認シ本會議力憲法作成後新政府ヲ選出スル迄現政府ノ權限ヲ繼續セシム」

第五節 勘察加割讓問題 (勞農政府トノ境界條約)

是ヨリ先大正九年十二月三十日極東共和國ト勞農露國トノ間ニ境界劃定ノ條約成リ共和國ヨリハ「クラスノ」シチヨコフ「勞農政府ヨリハ「ハカラハン」各代表者トシテ之ニ調印シタルカ該條約ニ依ル新境界ハ次ノ如シ

「セレンガ」河ト蒙古國境交又點ヲ基點トシテ「セレンガ」流域ニ沿ヒ貝加爾湖ニ至リ同湖中央線ヲ通過シタル後舊後貝加爾州ト「イルク」州ノ境界線ニ沿ヒ次イテ「ヤク」州南境界線ヲ東走シ後貝加爾州黑龍州及沿黑龍州ノ境界ヲ經テ「キラン」及「ベスムシ」兩河ノ分水嶺ニ達シ其ヨリ該分水嶺ニ沿ヒテ「オホ」海岸「マデヤ」リシテ岬端ニ至ル尙樺太北部ハ極東共和國ニ屬ス

即チ之ニ依リ「ヤク」州ハ勿論勘察加州モ悉ク勞農政府ノ領域ニ入ルニ至レリ、而シテ該境界條約ハ大正十年一月二十四日極東共和國政府ニ於テ可決確定シタル上批准ヲ求ムル爲メ憲法會議ニ提出シ三月十九日「クラスノ」シチヨコフ

ハ同會議ニ於テ之ヲ朗讀シ越エテ二十二日ノ會議ニ於テ審議ニ附セラレタリ

該條約ノ利害關係ハ主トシテ勘察加割讓問題ニ存シ左右兩黨間ニ多少ノ論議ヲ見タリ勘察加選出議員ハ

一九二〇年十月開催ノ勘察加州労働者會議ハ勞農露國トノ合併ヲ急務ナリト決定セルヲ以テ吾人ハ本條約ヲ歡迎スルコト

同時ニ極東諸州カ等シテ露國ニ合併スヘキモノナリト信ス

ト述ヘテ賛成ヲ表明シタルカ之ニ對シテ社會革命黨側ハ

(一) 共產黨ハ秘密外交ヲ排斥スルニ拘ハラヌ政府ハ斯カル重要案件ヲ秘密裡ニ決定セルコト

(二) 勘察加州ノ所屬如何ハ國際關係ニ重大ナル意義ヲ有スルコト

ヲ擧ケテ投票ヲ拒絕セムト主張シ社會民主黨側モ亦

本條約ニ依ツテ見ルニ勘察加州ノ前途ハ全ク豫測スルヲ得ナルモ「グアンダー」リツフ「ノ」利權問題ヨリ推スニ米國資本ノ獨占ニ歸スヘキヤノ疑アリ然レニ同州ヲ米國資本ニ委スルハ日本ヲ激成シテ沿海州及黑龍州ニ經濟的勢力範圍ヲ形成セシムルノ危險アルヲ以テ我黨ハ外國又ハ外國財團ニ對シテ或ル地方ヲ其ノ獨占ニ委スルヲ有害ナリト認ム

トノ理由ヲ以テ本條約ニ不賛成ヲ表シタルモ共產黨側ハ

勘察加州ニ於テ外國人ニ利權ヲ與フルト否トハ勞農政府ノ所見如何ニ依ルモノニシテ吾人ノ關スル所ニ非ス又吾人ハ同

州保有ノ實力ハ勞農露國極東共和國ヨリモ遙カニ大ナルヲ信ス

ト爲シテ原案ニ賛成シ斯クテ該條約ノ採否ヲ投票ニ問ヒタルニ棄權者六十一名反對十七名ナルニ對シ賛成二百二十八名ノ大多數ヲ以テ可決セラレ至レバ尙勞農政府中央執行委員會ハ四月十四日ニ至リ該條約ヲ批准シタルト云フ

第六節 議會宣言

上述ノ如ク二月十七日第三回會議ニ於テ議會宣言案委員三十九名ノ選舉ヲ見更ニ二十二日ノ決議ニ依リ議會宣言ヲ起草

ヲ右委員ニ委託スル所アリタルカ其ノ起草ニ係ル議會宣言案ハ三月二十二日ノ會議ニ於テ可決セラレタリ其ノ要領次ノ如シ

憲法議會ハ人民ノ名ニ於テ滿天下ニ向ツテ次ノ如ク宣言ス

(一) 「セレンガ」河、貝加爾湖以東ノ沿貝加爾、黑龍、沿海ノ五州及北樺太ヲ以テ極東民主共和

國トス

(二) 外國軍隊ノ駐在外國干涉及露國民ノ權利侵害ヲ排斥ス

(三) 東支鐵道附屬地ニ於テ前露西亞帝國ノ有セシ條約上ノ權利ハ全部共和國ニ移轉シ共和國勞農露國及支那共和國ノ間ニ於テ相互主義ニ基キ之ヲ改訂スベシ

(四) 國體ヲ民主主義トシ全人民ノ主權及勞動階級ノ固有權利ヲ保障ス、人民ノ意志ハ一般、直接、平等、無記名ノ投票ニ依リ選出セラレタル代表者ヲ通シテ直接ニ表明セララル

(五) 一切ノ階級制度及特權ヲ廢止シ身體、居住、通信ノ不可侵、言論、集會、結社同盟罷業宗教並旅行ノ自由ヲ保障ス

(六) 體刑、死刑ノ廢止

(七) 大赦

(八) 個人所有權制度ヲ存置シ之ヲ制限スルハ國民一般ノ利害ニ關シ法律ニ規定アル場合ニ限ル

(九) 土地、富源、森林、水面ハ國民全般ニ屬シ私有ヲ許サス

(一〇) 外國商工業ニ對シテハ門戶開放及相互定換主義ヲ採リ外國トノ通商關係復活ヲ期シ外國資本ヲ招致シ富源ヲ開發ス

(一一) 地方少數民族ニハ其ノ内部的勢力ノ發展ニ必要ナル程度ニ於テ廣ク自治權ヲ保障ス

翌二十三日會議ニ於テハ左記要領世界ノ各國民ニ對スル議會聲明案可決セラレタリ

過去二年有半極東露國民ハ内爭ニ苦シメラレタリ之ニ依リ與ヘラレタル試練ハ吾人ヲシテ一致共同スルニ非サレハ國民ノ幸福ヲ増進スル能ハズ先所既知ラシキ如ク吾人ハ萬難ヲ排シテ極東國民ヲ統一スル途ヲ求メテ開催中ノ憲法會議ハ民主主義四民平等主義及内外人私有財產制度ノ基礎トシテ極東共和國ノ建設ヲ遂ケ而シテ母國タル勞農露國ハ同共和國ノ獨立ヲ認ムルニ至リ

然レトモ新民主國ノ成功ニハ第一ニ獨立自治ノ國家團體ノ間ニ同等ノ一員トシテ承認セラレ第ニハ外國ノ權力及干涉ヨリ全分脱却スルハ二條件ヲ充ササルヘカラス、憲法議會ハ茲ニ全世界各政府及人民ニ對シ極東共和國公式ニ承認シ之ヲ相互關係ヲ確立スルモトニ依リ共和國各國內平和的事業ヲ共ニ以テ通商ヲ開始セムトスル目的ノ達成ヲ援助セラレム

越ニテ二十四日ノ會議ニ於テハ外交政策ニ關スル對日本、對支那及對米國ノ三聲明ヲ滿場ニ致テ以テ可決シタルカ右ニ就

キ

(一) 對日本聲明ニ於テハ西比利亞駐兵ニ關スル日本政府並西比利亞派遣軍ノ累次ノ聲明ヲ批判シテ其ノ駐兵ノ理由カ

キコトヲ力説シ日本駐兵ノ爲メ共和國政府及地方官憲ハ其ハ政治ヲ施行ス妨害セラレ日露兩國間ノ平和關係ヲ樹立シ

相互ノ通商關係復舊ヲ囑望スル極東露國民ハ安シテ平和的勞作ニ就クコト能ハズ且秩序ヲ恢復ヲ見ルニ至ラサルヲ

遺憾トシ今ヤ露領極東ハ統一セラレテ極東共和國トナレルヲ以テ憲法議會ハ自國ヲ外國ノ干涉ヨリ脱レシムトスル

人民ノ意思ヲ代表シ日本ニ對シテ極東共和國領土ノ全部ヨリ撤兵セムコトヲ極力要求シ且近キ將來ニ於テ日本政府カ

極東共和國ヲ承認シ之ト公式關係ニ入ラムコトヲ希望スル旨ヲ述ヘ

(二) 對支那宣言ニ於テハ極東共和國之侵略政策ヲ有セス侵略政策ニ依リ前露帝國時代ニ締結セラレタル條約ハ之ヲ改

訂スヘキ黃色人種ノ代表者ニ對シ何等制限的法律ヲ制定セザルヘキヲ表明シ

(三) 對米國宣言ニ於テハ米國軍ノ西北利亞撤退後日本軍ハ尙停マリテ橫暴ノ態度ヲ持スル處今ヤ極東ハ統一セラレム
(トシツツアルヲ以テ米國カ日本軍撤退ニ就キ盡力セムコトヲ要望スル所アリタリ)

第七節 憲法制定

極東共和國憲法制定ニ關シテハ基ニ三月八日ノ會議ニ於テ之カ起草委員トシテ社會革命黨七名「ランシニヒキ」七名其他ノ各派ヨリ六十四名合計七十八名ヲ選舉シタルガ其ノ起草ハ著々進捗シ三月中旬ニ至リ憲法ノ根本主義及政府ノ組織等重大問題ニ付テ各派間ニ大體ノ協調成レルモノノ如ク其ノ審議ニ入ルヤ比較的迅速ニ決定セラレタルヲ見ルハ即チ三月二十四日以降四月十四日ニ至ル諸會議ニ於テ憲法中(一)國家ノ領域(二)政體(三)統治ノ方法(四)法律制定(五)人民ノ資格及權利(六)國民議會ノ組織及權限(七)國民議會議員ノ權利及選舉方法(八)國民議會管掌事項(九)政府ノ組織權限及管掌事項(一〇)大臣會議ノ組織及權限(一一)國防等ニ關スル根本事項ヲ可決シ同五日以降十八日ノ會議ニ於テ(一)裁判(二)勞働(三)憲法改正(四)財政等ニ關スル條項ヲ議決シ翌十九日ニハ(一)財政經濟ニ關スル附帶法案(二)對外利權讓渡ニ關スル法案及(三)西方國境變更ニ關シ勞農露國ト交渉再開ノ件ヲ可決シ以上ヲ以テ大體憲法草案ヲ議了セリ
前記ノ如ク憲法草案ノ議了ハ意外ニ迅速ニ進捗シタルガ其ノ間幾多シ波瀾ヲ生ジタル事實ハ之ヲ觀視スルヲ得ヌ殊ニ中央政權ノ組織ニ關スル討議ニ於テハ各派大言其ノ主張ヲ異ニスルモノアリ共產黨、農民團多數派及社會革命黨ハ國民議會議員ヨリ七名ノ政府頭領ヲ選出シ其ノ任期ヲ二箇年トシ其ノ權限トシテハ大臣及會計檢査院ヲ任命シ又議會閉會中ハ必要ナル臨時法令ヲ發布スル權ヲ有シ且根本法ニ反スル他ノ法律ヲ停止スル等成ルベシ大ナル權限ヲ政府ニ賦與セムコトスルニ對シ社會民主黨、少數農民團其他ハ特ニ七頭政治ニ反對シ其ノ權限ノ過大ナルヲ攻擊シテ修正案ヲ提出シタルガ悉ク否決セラレ結局多數黨主張ノ如ク七頭領制度ノ確立ヲ見ルニ至レリ(憲法全文ハ附錄參照)

第八節 英佛兩國政府宛同文通牒

憲法會議ハ極東共和國ノ統一ノ完成及民福ノ増進ノ爲メニハ外國干渉ヨリ脱ルルヲ以テ第一ト爲シ上述ノ如ク其ノ議會宣言、對世界聲明及對日支米三國聲明ニ於テ極力コノ點ヲ主張スル所アリタリシカヨリ問題ニ關シ四月十八日ノ會議ハ英佛兩國政府ニ對スル左記要領ノ同文通牒ヲ決議シ在浦潮「チタ」外務次官「コセウニ」ヲシテ之ヲ同地兩國領事ニ交附セシメタリ

民主的自由及各國トノ平和共產主義ヲ基礎トスル新國家ヲ完成スル爲集合セル極東民主共和國憲法會議ハ貴政府並貴國民ニ對シ左ノ通告ス

「チニツク、スロヴァツク」軍ハ既ニ昨春撤退シ對獨戰爭ハ終了シ日本軍以外ノ聯合軍ハ何レモ露領ヲ撤退セリ然ルニ日本軍ハ撤退セサルノミナラス薩哈嚕州ヲ占領シ漁業權ヲ強奪シ逐次口實ヲ設ケテ露國ノ主權ヲ無視シテ內政干渉ヲ爲シ反革命派ヲ助ケテ內亂ヲ助長シ以テ露人ノ平和生活ヲ妨害シテ已マス依テ本議會ハ貴政府ニ對シ左ノ質問ニ對スル辯明ヲ求ム

(一) 貴政府ハ一九一八年八月ノ日本政府宣言ヲ有效ノモノト認ムルヤ

(二) 日本出兵當初ノ目的ハ達セラレタルヤ

(三) 右目的達成セラレタリトセハ何故ニ宣言ヲ發セサルヤ又日本カ依然駐兵スルノ理由如何

(四) 貴政府カ日本政府ノ對極東行動ヲ默認スル理由如何

第九節 新政府成立及憲法會議閉會

憲法議定ヲ終了セル憲法會議ハ四月二十五日第三回國民議會開催及極東共和國政府選出ノ二問題ヲ討議シタルガ國民議會

ニ關シテハ各派より種々ノ意見提出セラルタルモ結局現憲法會議ヲ以テ其ノ儘國民議會ト宣シ新國民議會ノ選舉ハ一箇年以內ニ之ヲ行フヘキコトニ決定セリ又政府選出ニ關シテハ論議ノ結果聯立主義ヲ採ルコトトシ各派各其ノ候補者ヲ指名シ投票翌朝ニ互リタルカ開票ノ結果左ノ如キ當選ヲ見ルニ至レリ

三八

「クラスノジチヨコフ」

[illegible]

「シロツブリ」
……
非・産・常

「クレルク」 共産黨

「スリ・ンキン」

農民團多數派

「ボロリーチ」
農民團多數派

「ボンダレンコ」

農民團多數派

右ニ就キ更ニ「クラスノシテヨコフ」ヲ政府留班ニ「マトウキ」ナシ「ヲ其ノ代理ニ選出シ」マトウキ「モ」公「ク」ナスノシ

チヨモフビノ代理トシテ二十六日ノ會議ニ於テ右政府選出ノ結果及政府カ「ニキイフロフ」ヲ内閣議長ニ任命シ之ニ内閣組織大臣會議ヲ委任シタル旨ヲ報告シ且政府ヲ全政權ヲ繼承シタルニ依リ憲法會議ヲ制定セル憲法ヲ施行スベキ旨ヲ宣旨シタルカ「ニキイフロフ」モ亦内閣議長トシテ其ノ施政方針ノ一端ヲ披瀝セル一場ノ演說ヲ試ミタリ

「ニキエボロ」云々議長は之を内閣の共產黨と社會黨右派とに聯立主義ヲ採ルニ決シタリシカ社會革命黨が久闊條件嚴重ナ
リシ爲難容易ニ其の人選ヲ見所ニ至ラザリシガ其ノ妥協を遠クスルヘキヲ見ルモ憲法會議が遂ニ四月二十七日閉會スル
ニ至レリ

第十節 憲法會議ニ於テ共產黨及非共產黨ノ關係

憲法會議ニ於ケル政黨の色彩ハ鮮シト表示セル如ク多數農民團ハ殆シト全議員ノ半数ニ近キ勢力ヲ占メタリシ非政府黨タル共產黨バ自ラ左黨ヲ以テ任ジ右黨側ニ立テタル社會革命黨、社會民主黨、國民社會黨等ニ對抗シ多數農民團ヲ其ノ範圍中ノモノトシテ之ヲ操縦シヅ、常ニ議場ニ絕對多數ヲ制シ最後マテ動搖スル所ナク反對黨ヨリ横暴ノ非難ヲ受クルコト一再ニシテ止マラザリキ其ノ初憲法會議ノ選舉戰ニ際シテハ共產黨ハ外觀上多數ヲ得ルニ勉メス實質ニ於テ多數ヲ制スルノ作戰ヲ採リ殊ニ農民ヲ懷柔スルコトヲ主眼トシ私ガニ黨員ヲ農民候補中ニ参加セシメ堪テ多數農民團ヲ操縦スルノ任ヲ擔ジシメタリト傳ヘラルコノ種々假裝農民團議員バ即チ所謂共產黨同情者ニシテ統計上三千四百名ヲ計上セリ

一方右黨タル非共產黨各派ハ自然政府反對黨トシテ結合シ少數農民團モ亦概ニ之ト歩調ヲ一ニセル傾向アリ然レトモ是等ノ右黨各派ハ各種ノ問題ニ關シ始終態度ヲ一ニシタリト云フコトヲ得ス各派方各自ノ立場ニ固執シテ結合ヲ被リ全ク反對黨ノ威力ヲ減殺スルノ結果ヲ生シタルコトヲ稀ナリトモセザルナリ以下憲法會議ニ於ケル非共產黨ノ立場ヲ明ニシ各派ノ態度ヲ概觀スル所アテムトス

反對黨各派ガ「タチヌ」ノシテ「コソ」政府及共產黨ニ對シテ大ナル不滿ヲ抱キタルニモ拘ハラス常ニ共產黨側ノ左右スル所ト爲レル原因ニ關シテハ是等反對政黨カ凡ゾ二點ニ於テ進退兩難ノ狀況ニ陷レルノ事實ヲ知ラサルハガラス元來憲法會議ニ參集セル者ノ大部分ハ舊ニ聯合國支持ノ下ニ「タチヌ」ク「軍」ヲ斷起セル以來極東ニ於テ一時政權ヲ獲得シタル極右黨分子ニ反抗シテ起チ之方倒潰ニ勉メタルモノニ外チラズ其ノ結果過去ノ極右黨政權ノ據明ニハ憲法會議バニ致ジテ反對スルノ態度ヲ執リ且極東民意ノ大部分モ亦政情ノ逆轉ヲ欲セザリシハ明チリ如斯形勢之下ニ於テ共產黨ニ對抗セザルハガチナルハ右派社會黨タル社會革命黨及社會民主黨ノ二大不利トナル所ナリ又憲法會議ノ開會ハ議員四分ノ三ノ集合ヲ要スルヲ以テ反對黨各派ガ聯合シテ脱退スルニ於テハ憲法會議ハ不成立ニ終ルヘキコト明ナリト雖若シ反對黨ニシテ斯クノ如キ態度ヲ執ルトキハ極東統一ノ破壞ト芝ニ伴フ極右黨ノ勢力據頭ハ責任ハ彼等自ラ之ヲ負ハサルノ窮地ニ立チタリキ反對黨ノ有シタル如クノ弱點ハ共產黨側ノ乘ズル所ト爲ル多數黨ハ特權ハ隨所ニ發揮モテレタリ就中對外政策殊ニ主トシ

ヲ日本撤兵問題及對極右黨政策ニ於テハ反政府黨ハ全然政府黨ト步調ヲ一ニスルノ態度ヲ執ラサルヲ得サルニ至レリ然レトモ反對黨各派カ各個ノ場合ニ如何ナル態度ヲ執リタルガヲ見ルニ概略次ノ如シ

(一) 社會革命黨

社會革命黨ハ「クレシキ」内閣ノ倒潰後歐露ニ於テハ其ノ勢力ヲ失墜シタルモ極東ニ於テハ尙多少重要ナル役割ヲ演シツ、アリ共產黨モ之ヲ以テ第一ノ敵黨ト看做シタル所ナルカ共產黨ノ勢力ヲ失墜セシムル爲ニハ寧ロ表面ヨリ反共產運動ヲ起スヲ不得策ナリトシ徐ニ農民ハ共產黨ニ對スル反省ヲ促スノ策ヲ遂ヘリ且政府組織ニ當リテハ共產黨ノ招請ニ應ジテ之ニ參加シ共產黨ノ横暴ヲ監視シ其ノ勢力ヲ制肘シ最後ノ勝利ヲ占ムルニ努メツ、アリ故ニ憲法ノ討議ニ於テ政府組織ニ關スル條項ノ討議ニ際シテハ同黨ハ獨リ政府黨ト提携スルノ奇觀ヲ呈シタルヲ見ル

(二) 社會民主黨

共產黨ニ對スル一般の態度ハ概社會革命黨ト同一ナルモ後者カ主トシテ購買組合ヲ通シテ農村ニ勢力ヲ扶植セムトスルニ反シ社會民主黨ハ主トシテ都市勞働者ノ輿望ヲ得ルニ努メツ、アリ憲法制定ニ當リテハ所謂第三黨タル關係上議會ノ機能ヲ大ニスルゴトヲ主張シ「政府」統領ノ權限縮小論ヲ唱ベタルハ既ニ述ベタルカ如シ

(三) 少數農民團

多數農民團カ主トシテ下層農民階級ノ代表者タルニ反シ少數農民團ハ中産及富裕農民ニ屬スル者多ク從ツテ其ノ色彩右偏スルヲ免レズ從來ハ主トシテ社會革命黨ニ近ツキタリシモ憲法討議中政府組織ニ關シテハ之ヲ離レテ社會民主黨ト結フニ至レリ

(四) 立憲自由黨(カデ)

同黨ハ選舉ニ當リテハ約四十名ヲ選出シ比較的多數黨タルヲ得ヘカリシニ拘ハラズ其ノ大部分ハ召集ニ應ゼス從ツテ有力ナル議員ヲ有セズ蓋シ同黨ハ初ヨリ本憲法會議及其ノ選出スヘキ政府ニ對シテ望ミ囑セス且會議ノ建設的行動ニ

ハ多ク參加セシテ其ノ態度極メテ消極的ナリシヲ見ル

(五) 社會革命黨西比利亞派

共產黨ニ對スル態度ハ社會革命黨ト同一ナルモ稍左偏の色彩ヲ呈シタリ對議會作戦上動モスレハ社會革命黨ト分離セムトスル傾向アリシカ上述ノ如ク憲法討議中政府組織ニ關シテハ全ク之ヲ離レテ共產黨案ニ反對ノ態度ヲ來レリ

最後ニ憲法會議ニ於ケル政府ノ政策ヲ概觀スルニ極東國民カ憲法會議ニ期待スル所ハ極東ノ經濟的恢復ニ在リト爲シ其ノ經濟的困難ヲ脱却シ得サルハ反革命軍ノ反逆的行爲及之ヲ支援スル日本軍ノ干涉ニ基因スル所以ヲ高唱シテ民心ノ期待ヲ買フニ腐心シ他方共產黨ノ勢力ノ偉大ナルヲ誇爾セムカ爲メニ勞農露國トノ關係密接ナルモノアルヲ吹聴スルニ勉メタリ斯クテ政府黨ノ主張ニシテ行ハレサルナク聯立主義ヲ採ル新政府(統領)ニ於テモ共產黨四名多數農民團三名選出セラレ實質上全ク共產黨政府ニ外ナラサル結果ヲ見ルニ至レリ

第三章 憲法議會後ニ於ケル一般政情 (大正十年六月末ニ至ル)

第一節 「ニキーフオロフ」内閣成立

知多憲法會議ハ四月十九日ヲ以テ大體憲法草案全部ヲ議了シ同二十五日新憲法ニ基キ「クラズノスチヨコフ」ヲ首班トスル
七頭領政府ヲ選出シ翌二十六日「ニキーフオロス」内閣議長ニ任命シテ新内閣ノ組織ヲ委任シタルカ内閣ノ人選ハ社會
革命黨側ノ入閣條件ノ爲メニ速カニ決著ヲ見ルニ至ラス憲法會議ハ内閣成立ヲ待タスシテ二十七日遂ニ閉會セリ社會革命
黨ノ主張セル入閣條件大要左ノ如シ

- (一) 内閣會議ハ單ニ政府ノ一般の監督ニ服スルノミニシテ憲法ノ範圍ニ於テ政治的ニ獨立セル機關タルヘキコト
- (二) 國家機關ノ行爲ト政黨の事務トニ廣ク區別ヲ置クコト
- (三) 政府及内閣カ著シク施政方針ヲ變更スヘキ事態ニ遭遇シタルトキハ臨時國民議會ヲ召集ス
- (四) 政黨各個ノ關係ハ各派ノ自由ヲ束縛スコトナク聯立主義ニ適當ナル形式ヲ採用ス
- (五) 内閣政綱中ニハ新國民議會ヲ速カニ選舉スル旨ヲ宣言スルコト
- (六) 政綱及閣員ノ役割ハ別ニ之ヲ協議スルコト

其後「ニキーフオロス」ハ内閣組織ニ關シ社會革命黨側ト交渉ヲ繼續シタルモ同黨ハ

- (一) 七頭政府ハ共產黨及其ノ傀儡ヨリ成リ居ル處政府ハ憲法上廣汎ナル權利ヲ附與セラレタルヲ以テ共產黨遂ニ國政
調理ノ實權ヲ掌握スルニ至ルベシ
- (二) 正當ナル手續ヲ踏ミ總選舉ニ依リテ國民議會ヲ組織セズ憲法會議ヲ變シテ其儘國民議會ト爲セリ
- (三) 以上ノ事實ハ明白ニ民主主義ノ精神ヲ沒却シ緩衝國設置ヲ本旨ニ悖ルニシテ眞ノ民主主義ノ實現ヲ不可能ナ

ラシムルノミナラズ外國ヲシテ依然極東露領一部ニ駐兵シ事實の占領ヲ繼續セシムルニ至ルヘシ
等ノ理由ヲ以テ憲法會議開會當初ノ同黨ノ黨略タル進シテ八閣シ共產黨ノ非民主的行動ヲ抑制シ以テ次回選舉ニ於ケル勝
利ノ基礎ヲ確立セムトスル方針ヲ拋棄シ入閣ヲ拒絕シタル結果五月四日「ニキーフオロフ」ハ社會革命黨ヲ除外セル左ノ諸
員ヲ以テ内閣ヲ組織スルニ至レリ

四四

首相	ニキーフオロフ	(共產黨)
内務	マトウエーエフ	(共產黨)
陸軍	ブトロフ	(無所屬)
海軍	グロスヤン	(共產黨)
商	ボレグーエフ	(不明)
食糧	シユリヤトコフ	(共產黨)
勞務	ビナシツク	(社會民主黨)
司法	ペトロフ	(無所屬)
衛生	シユレイベル	(國民社會黨)
文部	シャートフ	(共產黨)
交通	ベツノフ	(共產黨)
農務	アニシエフ	(社會民主黨)
工務	シツクス	(社會民主黨)
無任	イワノフ	(無所屬)
財政		

尙外務通信ノ兩部ハ未定ナリシカ外相トシテハ知多側ハ在北京知多代表者「ユーリン」ヲ推シ浦潮側ハ當時ノ沿海州廳首班

「アンストロフ」ヲ辭メタルモ五月中旬「ユーリン」ヲ任命ヲ見タリ
右任命ハ社會革命黨トノ妥協成ル迄一時のカレモノトモテ同黨ニシテ入閣ニ決スルニ於テハ交通、財政其他ニ異動ヲ見
ルニ至ルヘシト觀測セラル

第二節 知多政府ノ内訌

客年十一月知多統一會議終了シ新政府成立シテ以來前「ウエルクネ」政權系統タル「クラスノスチヨコフ」一派ノ專横事毎
甚シク爲メニ他地方出身ノ共產黨員トノ亂ノ軋軋絶ヘス政府内部ニハ常ニ不平不満ノ聲ヲ聞キタリシカ憲法會議ノ開會新
憲法ノ制定ニ依リ機ニ妥協調和ヲ見出スヲ得タリキ
然レトモ憲法會議開會中ヨリ「クラスノスチヨコフ」一派ト同會議各長「シロフ」及「ニキーフオロフ」ヲ中心トスル一派
トノ軋軋ヲ見ルニ至レリ「クラスノスチヨコフ」ノ過去ニ於ケル功績ト其ノ積極的手腕ハ一般ニ推服スル所トナリタルモ
其ノ陰險ナル外交的辭令ト反對黨ニ對スル峻烈ナル攻撃的態度トハ寧ろ人民ノ不評ヲ買ヒタルニ反シ純朴ニシテ誠意アル
「ニキーフオロフ」及「シロフ」ハ人望遙カニ前者ヲ凌駕スルノ觀アリ、憲法會議中ハ「ニキーフオロフ」病臥シテ殆ント會
議ニ出席セザリシヲ以テ「クラスノスチヨコフ」ノ勢力獨リ振ヘルノ機アリシモ憲法會議閉會シ「クラスノスチヨコフ」
及「シロフ」ヲ合ム七頭政府出現シ「ニキーフオロフ」ヲ議長トスル内閣成立スルヤ兩派ノ軋軋ハ再燃シ「クラスノスチヨ
コフ」モ對内政策上病氣ト稱シテ一時知多中央政界ヲ退キ勢力失墜ノ端緒ヲ開キタルカ他方「シロフ」一派ハ其ノ股肱タ
ル第三黑龍師團ヲ知多ニ入レテ五月三日極東軍總司令官「ニイ」ハ職ヲ免ジ「ニキーフオロフ」内閣ノ陸相「ブーロフ」ヲ以
テ臨時代理セシメ大イニ其ノ勢力ノ根柢ヲ造レリ其後「クラスノスチヨコフ」ハ歐露方面ニ向フテ知多ヲ去リ知多政府ハ
一時「シロフ」「ニキーフオロフ」一派ノ手ニ依リ支配セラルルノ形勢ヲ見ルニ至レリ

第三節 知多政府新貨幣令

知多政府ハ豫テヨリ財政整理ニ腐心シ其ノ政策ノ一端トシテ鋭意貨幣流通調整ニ關スル方策ヲ講究中ナリシカ五月十六日ニ至リ新貨幣令ヲ發布シ電報ニ依リテ其ノ施行ヲ命ジタリ其ノ内容次ノ如シ
一、一九二二年一月十四日及一九二〇年十一月十五日ノ硬貨流通禁止ニ關スル法律並紙幣流通ニ關スル法律ハ之ヲ廢止ス
二、左記規定ニヨリ露國硬貨即チ金、銀銅貨及一九二〇年二月十五日ノ法律第一條ニ定メタル紙幣ノ流通ヲ許可ス
三、總テ共和國ニ於ケル金錢勘定ハ官衙ニ於ケルト商工業ニ於ケル交易ノ場合タルト將又共和國ト個人ノ財產並金錢勘定及個人相互間並個人ト國庫トノ勘定ハ總テ前記ノ貨幣ニ依リテ行ハルルコトヲ要ス
四、國庫ト個人トノ間ノ勘定ハ總テ露國金留ヲ以テ基本トナス
五、紙幣並補助貨ハ共和國領域ノ全般ニ互リ適用スル爲メ大藏省ノ定期的ニ公告スル金留ニ對スル相場ニ依リ收納セラ
ルヘキモノトス
六、大藏大臣ハ商工業市場ニ於ケル支拂能力ト適應スル流通各種紙幣補助硬貨ノ金留ニ對スル相場ヲ定期的ニ定ム該相場ハ共和國全部ニ互リ稅統一ナル唯一ノ相場タルヘシ
七、各種ノ國稅、手数料(印紙稅、郵便電信料金、鐵道料金、關稅其他)直接稅間接稅ハ法定ノ手續ニヨリ當該官廳之ヲ定ム地方自治團體ノ收入ニ付テモ亦同シ
八、大藏大臣ハ國稅ノ決定ヲ經テ關稅及他ノ或種ノ手数料ハ露國硬貨ニ限リ收納スルコトヲ定ム
九、過怠金並義務ニ基ク手数料ニシテ個人ヨリ國庫並地方自治團體ニ納入スルモノ及國庫自治團體ヨリ個人ニ拂渡スハ

キモノハ特別法ニ依リテ之ヲ定ム

第四節 知多民情並浦潮政變ノ影響

浦潮ニ於テハ「セメノフ」カサベリ軍ノ沿海州移入以來反革命的氣勢漸次濃厚トナリ三月三十一日事變ヲ初メ幾度カ政變ノ企圖セラルルアリ物情騒然タルニ至リタルカ浦潮ニ於ケル這般ノ情勢ニ相前後シテ知多ニ於テモ反政府の陰謀事件頻出シ同地方ハ再ヒ恐怖時代ニ入レルカ如キ觀ヲ呈シ或ハ知多勞働者百餘名カ三月末國家保安部ニ不平ヲ抱キテ之ヲ襲撃セムトシ却ツテ反撃セラレテ數名逮捕セララルルアリ或ハ二步兵聯隊ニ於テ副隊長以下將校十數名反政府の陰謀ノ廉ヲ以テ逮捕セララルル等政府ハ漸ク恐慌ヲ感スルニ至リタルカ半「バルヂザン」的ナル第三黑龍師團ヲ知多來著ト共ニ共產黨ノ氣勢頓ニ昂リ或ハ緩衝國ノ廢止ヲ唱ヘ或ハ反共產黨派ノ徹底の抑壓ヲ叫ビ政府ノ果斷政策ヲ從應スル所アリ然ルニ右第三師團兵卒ノ橫暴ハ一般ニ市民ノ恐怖ト反感ヲ買フニ至リ同師團長邸宅ニ爆彈ヲ投下スルモノアリタル等反抗的氣勢容易ニ屏息セザリシ爲メ四月九日知多附近ニ戒嚴令布告セラレ衛戍司令官ハ飲酒、集會、及夜間通行禁止ヲ嚴命スルニ至レリ其後憲法會議ニ於テ民主主義ヲ骨子トスル憲法制定セラレ共產黨モ亦對内關係上及黨路上民主主義ヲ標榜スルノ已ムヲ得ザリシノミナラス黨路上多數ノ鐵道從業員及勞働者ヲ反對黨側ニ立タシムルヲ不利トシテ努メテ之カ歡心ヲ買ハムトスルノ態度ニ出テタル結果人心一時平穩ニ歸スルニ至レリ
越ヘテ五月二十六日ノ浦潮政變勃發スルニ至リ知多住民ニシテ之ニ應セムトスルモノ極メテ多ク反政府的情勢再ヒ盛ナルニ至リタルモ國家保安部(ゴスボムトフラン)及「バルヂザン」ノ壓迫ヲ恐レ且浦潮ノ新政權カ永續セザルトキハ再ヒ共產黨ノ爲メニ迫害ヲ蒙ルヘキヲ憂慮シテ敢テ發スル者ナシ殊ニ政變後ハ官憲ノ壓迫ヲ怖レ市民ニシテ同地日本人ト交際スルモノ殆ント無キ狀態ナリシカ同政變ニ對シテハ知多市民中好感ヲ有スル者割合ニ多キモノノ如ク共產黨ノ一員ノ談トシテ傳ヘラルル所ヲ見ルニ今次浦潮政變ニ對スル知多市民ノ態度ヲ百分比ヲ以テ示セハ賛成四十五、反對二十五、不明三十ノ割合ナ

ラムト云フ

浦潮政變ニ對スル知多政府ノ態度ハ浦潮政情ノ都ニ於テ別ニ之ヲ述フル所アルニキモ之ヲ概説スレバ政變ノ當初ハ同政府ノ驚愕甚シク武力ヲ以テ之ヲ解決セムトスル氣勢ヲ示シタルモ爾後其ノ真相漸次判明スルニ及ビ恐怖心漸ク減退シ武力解決ノ意思ヲ拋棄シ成ルヘク宣傳ニ依リ穩便ナル手段ヲ以テ時局ヲ解決セムトスルニ至レリ加之政變當初知多政府ハ本年一月日佛兩國ニ極東露領ニ關スル秘密協約成立セリト爲シ一時悲觀ニ陥リタルモノノ如キモ同時ニ米支兩國間ニ日佛密約ニ反對シ極東共和國ヲ支援セムトスル協約存シ又日米間ニハ必ス衝突起ルヘキヲ信シ一般ニ樂觀ヲ裝フニ至レルモノノ如シ

浦潮政變ト共ニ勞農露國ハ極東共和國ニ對シ浦潮政策ヲ無能ク概シ緩衝國撤廢論ヲ見ルニ至リタルカ知多政府ニ於テモ共產黨委員會ハ緩衝國存廢問題ニ就キ協議スル所アリ一時之ヲ撤廢シテ勞農露國ニ合併スベシトノ説有カナリシモ六月四日ニ至リ結局憲法ノ主義ヲ實行スルニ決シ且内閣ニハ社會革命黨ヨリモ大閣セシメ舉國一致ノ實ヲ擧ゲムトスルノ態度ヲ示スニ達セリ

尙第二黑龍軍司令官「バウロフ」ハ免職セラレテ歐露ニ赴キ元同軍司令官タリシ「セルグ」ニ「同軍司令官兼沿海州攻撃軍司令官」ニ任命セラレ五月三十日知多縣東行セリト云フ

第五節 「ユーリン」外相ノ外交觀

極東共和國ノ代表者トシテ久シク北京ニ駐在シタル「ユーリン」ハ五月中旬外務大臣ニ任命セラレテ知多ニ歸任セルカ六月二十日交通省從業員ノ集會ニ於テ外交問題ニ關シ左ノ如キ報告ヲ爲セリト云フ

- 一、勞農露國ハ日ニ鞏固トナリツツアリ
- 二、米國ハ新大統領トナレルモ未タ露國ニ對スル態度ヲ變更セス依然露國ノ研究ヲ續ケ之ニ對シテ同情ノ言ヲ爲シツツ

アルノミ然レトモ米國ハ露國殊ニ支那ニ利害關係ヲ有シ日本ノ同方面ニ對スル侵略ヲ恐ルルヲ以テ近キ將來ニ於テハ積極的行動ニ出ツヘク吾人ハ之ト妥協シテ吾人ノ目的ヲ達成スルコトヲ得ヘシ

三、支那ハ統一ヲ缺キ中央政府ハ其ノ無力ヲ自白シアルモ承認セラレタル政府ナルヲ以テ之ヲ輕視スルコト能ハス支那政府ハ露國ト協同スルヲ以テ有利ナリト解シ居ルヲ以テ第一ニ極東共和國ヲ承認スルモノハ支那ナルヘシ

四、佛國ハ日本ノ如ク露骨ニ過激派ト戰ヘリ東支鐵道ニ對スル同國ノ投資多キモ其ノ一原因ナリ要スルニ佛國ヨリハ尙幾多ノ迫害ヲ受クヘク或ハ「ウランゲル」軍ヲ極東ニ輸送スルニ出ツルヤモ知ルヘカラス

五、日本ハ極東ニ重大ナル關係ヲ有シ其ノ一部ノ占領ヲ欲スルト共ニ日米關係ヲ顧慮シ將來ノ安全ヲ計ル爲メ特ニ極東ニ自己ニ有利ナル政府ヲ建設セムト欲ス米國モ亦同様ナリ日本ハ知多ノ民主的政府ヨリ支援ヲ受ケ得ルヤ否ヤヲ疑フト共ニ「セメノフ」「メルクーロフ」カ國民ノ信望ナキヲ知レリ又日本ハ何ノ得ル所ナク撤兵スルヲ欲セス然リトテ薩哈嚨ヲ占領セハ米國ト事端ヲ生セムコトヲ恐ルルモノナリ且日本ニ必要ナルハ極東ヨリモ寧ロ支那殊ニ蒙古ノ原料品ニ在ルヲ以テ「ニキーフオロフ」「ブナシツク」ニ秋波ヲ送リ「アントーノフ」カ浦潮ヲ退去スルニ際シテモ之ニ秋波ヲ送レリ

六、眞ノ民主國タル極東共和國ハ國家建設ノ爲國民ノ全力ヲ利用シ得ヘシ故ニ吾人ハ一九一七年獨逸ト談判セシ如ク日本ト協約シ之ニ特典ヲ與フルコトヲ要セス米國モ亦何等カノ要求ヲ爲スヘキモ吾人ハ國民ノ一致團結ヲ以テ決シテ奴隸化スルコトナク國民ノ自由ヲ固執スルコトヲ得ヘシ云々

附
録

極
東
共
和
國
憲
法

REEL No. 1-1267

0387

朝鮮
極東共和國憲法

極東共和國憲法

(哈爾濱發行露紙「フヘリ」所載)

目次

第一編 總則	
第二編 共和國ノ領土	
第三編 市民及其ノ權利	
第一節 市民タル權利	
第二節 市民ノ權利	
第四編 主權	
第一章 中央主權	
第一節 總則	
第二節 國民議會	
第三節 政府	
第四節 大臣會議	
第五節 立法會議	
第二章 主權ノ地方機關	
第一節 總則	
第二節 主權ノ州機關	
第三節 政府ノ州代官	
第四節 主權ノ郡、市、鄉及村機關	
第三章 裁判	
第四章 國民監督院	
第五章 民族ノ自治	
第一節 總則	

第二節 「フレイット」部族自治
第三節 少數民族ノ自治
第五編 國民經濟制度ノ基礎
第一章 土地
第二章 勞働
第三章 財政經濟制度
第一節 總則
第二節 租稅
第三節 國家ノ收入及支出並ニ收支表
第四節 國債
第五節 幣制
第六編 共和國ノ國防
第七編 國民教育
第八編 共和國ノ國章及國旗
第九編 憲法ノ變更
第十編 第一回國民議會及政府

第一編 總則

第一條 極東共和國ハ民主國トシテ設立セラル
第二條 極東共和國ハ本根本法ヲ以テ定メタ順序ニ據リ發布セラレタル且ツ共和國ノ營造物、官吏及市民ノ全部並ニ領土内ニ滯留スル外國市民全部ニ對シ除外ヲ行フコトナク一樣ニ強制力ヲ有スル法律ノ正確ナル基礎ニ依リ統治セラル
第三條 共和國ノ法律ハ本根本法ヲ以テ定メタル順序ニ據リ發布サルヘキ法律ノ效力ヲ以テノミ廢止及變更セラルコトヲ得

第二編 共和國ノ領土

第七條 沿貝加爾、後貝加爾、黑龍、沿海及沿黑龍ノ諸州ヲ包容スル「セレンガ」河及貝加爾湖以東太平洋ニ至ル舊露西亞帝國ノ全領土及薩哈連島北部ヲ獨立極東共和國トシテ布告ス
前記領土ニ關スル露國ノ權利及義務並ニ全權ヲ有セル露西亞政府カ共和國境界ト接攘ノ支那及其ノ他諸國ノ領土及領水ニ付外國ト締結セル條約及協約ニ關スル露國ノ權利及義務ハ凡テ極東共和國ニ移轉ス
第八條 極東共和國及露國社會主義聯邦「ソヴィエト」共和國ノ境界ハ相互ノ條約ニ據リ下ノ如ク布告ス「セレンガ」河ノ蒙古流出點ヨリ舊「セレンギンスキー」、「バルグジンスキー」及「ウエルフネウヂンスキー」郡ノ行政區界迄ハ貝加爾湖ニ至ル同諸郡界、貝加爾湖ノ中央「ヤクトスカヤ」、後貝加爾及黑龍諸州間ノ舊境界カ「キラシ」及「ベスムシ」兩河間ノ分水嶺ニ達スル迄「オコツク」海岸「マヂエリシダ」岬附近ニ出ツル前記分水嶺、同岬緯線以南ノ島嶼全部ヲ含ム

第三編 市民及其ノ權利

第一節 市民タル權利

第九條 左ノ者ハ極東共和國市民トシテ之ヲ認ム
一 本根本法第一編ヲ以テ定メタル境界内ノ共和國領土内ニ出生シタル露西亞市民全部

二 共和國ノ獨立ヲ布告シタル時(一九二〇年四月六日)共和國領土内ニ居住シタル露西亞市民全部
三 獨立宣言ノ發布後共和國領土ニ到着シタル並ニ本根本法ノ發布後共和國ニ到着スル露西亞市民ニシテ露西亞社會主義聯邦「ソヴィエト」共和國市民ノ資格ヲ以テ規定ノ手續ニ據リテ登録ヲ受ケタル者
四 東支鐵道租借地内ニ居住スル一切ノ露西亞市民ニシテ本法發布後六箇月内ニ於テ或ル他ノ國籍ニ在ル旨ヲ届出ナス且ツ本期間内ニ孰レカノ國ノ市民ニ屬スル旨ノ書類ヲ提出セサル者
五 規定シタル手續ニ據リ極東共和國市民ニ轉籍シタル外國人全部
第十條 露西亞帝國ノ各地ニ出生シタル者ニシテ本法發布日ヨリ六箇月内ニ露西亞社會主義聯邦「ソヴィエト」共和國ノ又ハ舊露西亞帝國領土内ニ組織サレタル他ノ獨立國ノ市民ニ屬スル旨ヲ證明スル書類ヲ以テ届書ヲ提出シタル者ハ共和國市民中ヨリ除外ス

第二節 市民ノ權利

第十一條 市民全部ハ男女、職業ノ種類、民族、宗教、所屬政黨ノ如何ヲ問ハズ法律ノ前ニ於テ平等ナリト定ム市民ノ族別、族稱ニ關スル特權及特典並ニ身分ノ稱呼、文官、武官及爵ノ別ヲ廢止ス
第十二條 市民全部ハ其ノ犯行爲及過失ニ對シ唯共和國ノ法律ニ據ル裁判ニ依リテノミ責任ヲ負フ
第十三條 共和國市民全部ハ信教ノ完全ナル自由ヲ保障セラル市民權及政治權ノ行使ハ宗教ト何等ノ關係ヲ有セス而シテ何人ト雖共和國境界内ニ在リテハ宗教ノ信條ノ爲メ何等ノ權力ニ依リテモ追窮セラルルコトナク且ツ何等ノ權利ヲモ制限セラルルコトナシ
第十四條 教會ハ國家ヨリ之ヲ分離ス各市民ハ任意ノ宗教ヲ信仰シ又ハ何等ノ宗教ヲ信仰セサルコトヲ得
第十五條 當該市民官憲ノ機關カ法律ニ據リテ定メタル手續ヲ以テ作製スル市民身分ニ關スル文書ノミハ法律約効力ヲ有ス

第十六條 政府營造物及公人ヨリ市民ニ交付スル書類ハ市民ノ宗教ヲ指示シ又ハ宗教ニ屬セサル旨ヲ記載スルコトヲ許サス

第十七條 市民全部ハ集會、言論及印刷ノ完全ナル自由ヲ保障セラル

口頭若ハ印刷セル言語ヲ以テ爲セル犯罪行爲ニ對スル處罰ハ唯裁判ノミニ據リテ之ヲ課ス

市民ハ自己ノ意見ヲ自由陳述スルニ對シテ責任ヲ負フコトナシ

第十八條 共和國刑法ニ據リ處罰サルヘキ目的ヲ有セサル聯合會及組合(宗教ニ關スル物ヲモ含ム)ノ組織及存置ノ自由ヲ布告ス

備考一 聯合會及組合(教會及宗教團體ヲモ含ム)ノ法人ノ權利ヲ獲得ハ一般民法ヲ以テ之ヲ定ム

備考二 聯合會及組合ノ開鎖ハ裁判所ノ決定ニ據リテノミ之ヲ行フ

第十九條 勞働者ノ爲メ同盟罷業ノ自由ヲ定ム同盟罷業ハ國家ヨリ何等制限ヲ加フヘキモノニ非ス

第二十條 各市民ノ人格住居及信書ハ侵ササルコトナシ

第二十一條 何人ト雖裁判ナクシテ處罰サルルコトナシ何人ト雖共和國ノ法律ヲ以テ定メタル根據ナクシテ拘束、拘禁、身體検査、家宅搜索及自由ノ制限ヲ被ムルコトナシ裁判官ノ決定ニ據リ決定書ヲ拘束サルヘキ者ニ提示シタルトキハ此ノ限ニ非ス

唯犯罪ノ現場ニ於テ捕フル場合ノミハ決定ナキトキタリトモ本法ノ除外例トス但シ裁判官ハ二十四時間内ニ於テ被拘束者ニ對シ告訴ヲ爲ササルヘカラス

第二十二條 被逮捕者及任意ノ市民ハ速ニ告訴ノ提起又ハ釋放ヲ要求スルコトヲ得

第二十三條 主人ノ承諾ナクシテ住屋内ニ入ルハ唯住屋ノ内部ヨリ援助ヲ乞ヒタルニ因リ援助ヲ與ヘムカ爲メ若ハ不幸ナル場合ニ於テ又ハ裁判官ノ要求ヲ實行セムトスルトキニ之ヲ許スモノトス

第二十四條 郵便、電報及電話ノ通信ノ檢閲ハ之ヲ許サス
 第二十五條 各市民ハ自由ニ職業ヲ選擇シ住所ヲ變更スル權利及法律ヲ以テ定メタル場合ヲ除クノ外共和國境界内ニ於テ及外國ニ向ヒテ自由ニ移動スル權利ヲ附與セラル
 第二十六條 管刑及死刑ハ今後全ク永久ニ之ヲ廢止ス
 第二十七條 各種財産又ハ事業若ハ職業用物品ノ領有及處分ノ禁止又ハ前記物件ヲ領有スル權利ノ制限ハ唯立法手續ノミヲ以テシ一般國民ノ利益ナル時ニ於テノミ之ヲ行フモノトス
 第二十八條 極東共和國ノ組織中ニ入レル一切ノ少數民族ハ廣汎ナル自治權ヲ附與セラル自治ノ範圍ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
 第二十九條 官廳及官吏ト交渉シ或ニ公務ニ關スル往復文書及自己ノ商業帳簿ヲ記スル爲メ各市民ハ自己ノ言語ヲ使用スル權利ヲ有ス地方ニ於ケル自治機關裁判所及公務ノ交渉ニ於テ該言語ノ使用ヲ保障スル爲メ特別ノ法律ヲ以テ其ノ形式及規則ヲ定メサルヘカラス
 第三十條 極東共和國領土内ニ居住スル外國人ハ相當法律ヲ以テ明カニ定メタル場合ヲ除クノ外共和國市民ニ附與シタル權利ヲ享有ス

第四編 主 權

第一章 中央主權

第二節 總 則

第三十一條 極東共和國領土内ニ於ケル最高國家主權ハ唯極東國民ノミニ屬スルモノトス
 第三十二條 國民ハ國民議會及國民議會ノ選舉シタル政府ヲ經テ自己ノ最高主權ヲ實行ス

第二節 國民議會

第三十三條 國民議會ハ共和國住民全部ノ一般、直接、平等及秘密投票ニ依リ議員ノ任期ヲ二箇年トシテ人口一萬五千人ニ對シ議員一名ノ割合ヲ以テ比例代表制ニ據リ之ヲ選舉ス
 第三十四條 立法權ハ全然國民議會ニ屬ス
 第三十五條 共和國市民全部ハ男女、宗教、民族ノ別ナク十八歳ニ達シ健全ナル智力ヲ有シ且ツ裁判ニ據リ權利ノ制限ヲ受ケサル者ハ國民議會ニ關スル選舉權及被選舉權ヲ享有ス
 第三十六條 軍務ニ服スル者モ市民全部ト等シク國民議會ニ關スル選舉權ヲ有シ全住民ト共ニ選舉ノ投票ヲ行フ戰線ニ在リ又ハ移動中ノ軍隊ハ全住民ト共ニ投票ヲ行フコトニ關スル規則ノ除外例トナスコトヲ得
 第三十七條 軍務又ハ他ノ國務ニ服スル者カ國民議會議員トシテ選出セラレタルトキハ議員タル全期間中勤務ニ關スル義務ノ遂行ヲ免除セラル
 第三十八條 國民議會ノ會期ハ毎年二月一日及十一月一日ニ之ヲ開ク會期ノ長短ハ國民議會之ヲ定ムルモ農業期間ハ之ヲ中止ス國民議會臨時會ハ政府ノ發議ニ因リ又ハ國民議會全員ノ半數ノ要求ニ因リテ之ヲ召集スルコトヲ得
 第三十九條 各同組織セル國民議會ノ全權ハ新選議員ヲ以テ成立シタル國民議會開會ト同時ニ效力ヲ失ス
 第四十條 新選國民議會ハ前議會ノ議長若ハ副議長之ヲ開會ス會議開會後秘密投票ヲ以テ議員中ヨリ幹部ヲ選出ス
 國民議會ノ第一回會議ハ議員全數ノ三分ノ二以上其ノ後ノ會議ハ半數以上ノ出席ヲ以テ合法ノモノト認ム
 第四十一條 國民議會議員タル者ハ國民議會ノ決議ニ因ルニ非サレハ拘留セラレ又ハ刑事的審問ニ附セラルル事ナカルヘシ但シ犯行ノ現場ニ於テ捕ヘラレタル者ヲ外ク此ノ場合ニ於テハ拘留後二十四時間以内ニ國民議會議長ニ之ヲ報告セザルヘカラス議長ハ權力ヲ以テ被拘留者ヲ釋放スルコトヲ得ルモ次回國民議會ノ會議ニ於テ適當ナル決議ヲ得ムカ爲メ發生事件ニ關スル問題ヲ提起スル義務ヲ有ス

第四十二條 國民議會ノ管掌事項ハ左ノ如シ

五八

- 一 國家及社會ノ狀態ニ關スル一切ノ問題ニ對スル法律ノ審議並ニ採用
 - 二 極東共和國政府及外國政府間ノ一切ノ國際(商業及其ノ他)ノ條約ノ審議及協賛
 - 三 國家ノ收入及支出表ノ決定、同表ノ實行ニ關スル報告ノ審査、豫算外支出、諸税、關稅及課金ノ決定、公債ノ審議及決定、紙幣發行ノ決定、政府及大臣會議所管以外ノ「コンセンション」契約ノ認可
 - 四 共和國領土内ニ於ケル貨幣制度並ニ度量衡ノ決定及變更
 - 五 共和國兵力組織ノ基礎ノ決定
 - 六 官廳ニ對スル最高監督
 - 七 特赦ノ發布
 - 八 戰爭ノ宣告及平和ノ締結
 - 九 國民議會カ審議ニ附スルヲ必要ト認メタル他ノ一切ノ問題ノ決定
- 第四十三條 國民議會ノ兩開會期ノ中間ニ在リテ政府ハ次回開會期召集以前ニ於テ猶豫スルヲ得サル臨時法律ヲ發布スル權利ヲ有ス該法律ハ共和國ノ根本法ヲ變更シ又ハ根本法ノ全部若ハ一部ノ效力ヲ停止スルコトヲ得ス而シテ該法律中ニ本條ニ據レル旨ヲ附記スヘシ此ノ手續ニ據リ發布サレタル法律ハ國民議會ノ開會シタルトキ直ニ議會ノ審議及認可ニ附セサルヘカラス國民議會ハ該法律ノ審査以前ニ於テ之レカ效力ヲ停止スルコトヲ得

第三節 政 府

第四十四條 極東共和國政府ハ七名ヨリ成リ二箇年ノ任期ヲ以テ國民議會之ヲ選舉ス

第四十五條 政府ノ選舉ハ國民議會ノ會議ニ於テ秘密投票ヲ以テ之ヲ行ヒ會議出席議員三分ノ二以上ナルトキ選舉ヲ有效トス被選舉候補者ハ國民議會議員全數ノ半數以上ノ投票ヲ得タルトキ政府員トシテ選出サレタルモノト認ム

第四十六條 期限前ニ於ケル政府改選ハ政府員四名ノ職ヲ去リタル場合ニクミ之ヲ行フコトヲ得

第四十七條 政府員タリ得ヘキ者ハ唯極東共和國市民ニシテ國民議會ニ關スル選舉權ヲ有スル者ニ限ル

第四十八條 政府ノ管掌事項ハ次ノ如シ

- 一 大臣會議議長及人民國務監督官ノ任免、大臣會議ノ請求ニ因ル大臣及次官ノ任免並ニ政府ノ任命スル諸員ノ任免
- 二 共和國ト外國トノ交渉ニ付共和國ノ代表
- 三 國民議會臨時會議ノ召集
- 四 特赦ノ發布
- 五 國民議會ノ採用シタル法律ノ公布
- 六 國民議會開會期外ニ於テ本法第四十三條ノ手續ニ據ル臨時法律ヲ發布
- 七 政府カ法律又ハ憲法ノ一般精神ニ違反セリト認メタル大臣會議ノ一切ノ決議ノ停止又ハ廢止

第四十九條 政府ハ大臣會議ト共ニ共和國領土内ニ於テ最高執行權ヲ實施ス最高執行權ニ入ルモノハ次ノ如シ

- 一 國家ノ一般統治並ニ外政及内政ノ指導
- 二 共和國兵力ノ組織
- 三 平和締結問題ノ豫備決定及共和國領土ノ不可侵ノ防禦
- 四 國民議會ノ審査及協賛ヲ要スル公債並ニ「コンセンション」關稅、通商及其ノ他ニ關スル條約並ニ契約及財務協約ノ締結
- 五 共和國收支表ノ編成

第五十條 政府カ國民議會ノ採用シタル法律ヲ以テ根本法ニ違背セルモノト認メタル場合ニ於テハ政府ハ該法律ノ實施ヲ停止スル權利ヲ有ス政府ノ停止シタル法律ハ之ヲ國民議會ニ返附ス國民議會カ之ヲ再投票ニ附シ出席議員數ノ三分ノ二

五九

カ本法律ニ賛成シタルトキハ法律ハ國民議會ニ於テ採用サレタルモノト認ム前記ノ順序ニ依リ國民議會カ再度可決シタル法律ハ爾後政府ニ依リ其ノ效力ヲ停止セザルモノトス

第五十一條 政府ノ一切ノ公文書並ニ第四十三條ノ手續ニ據リ政府ノ發布スヘキ臨時法律ハ大臣會議又ハ大臣中ノ一人ノ署名後ニ於テノミ效力ヲ生ス大臣會議全部ハ右署名ニ關シ國民議會ニ對シテ責ヲ負フモノトス

第五十二條 政府員國家ニ對スル叛謀ヲ行ヒタルトキハ國民議會ノ特別決議ニ據リ之ヲ裁判ニ附スルコトヲ得

第四節 大臣會議

第五十三條 大臣ハ全部大臣會議ニ入ル大臣ノ數及各大臣ノ事務管掌範圍ハ官省ニ關スル特別法令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十四條 大臣會議議長ハ任所ヲ有シ又ハ任所ヲ有セザルコトヲ得

第五十五條 人民國務監督官ハ評議權ヲ以テ毎回大臣會議及政府會議ニ出席ス

第五十六條 大臣タルヲ得ル者ハ唯國民議會ニ關シ選舉權ヲ有スル極東共和國市民ノミトス

第五十七條 大臣ノ官職ハ政府員ノ官職ト兼ズルコトヲ得ス、但シ國民會議議員ノ職ヲ兼ズルコトヲ得

第五十八條 各大臣ハ自己所管ノ問題ニ關シ國民議會ニ於テ發言スル權利ヲ有ス

第五十九條 各大臣ハ大臣會議全部並ニ單獨大臣ノ一切ノ行為、處置、決議並ニ政府ノ公文書ノ署名ニ付全體又ハ單獨ニテ國民議會ニ對シ責ニ任スルモノトス大臣カ官職ニ關シ犯罪ヲ行ヒタルトキハ國民議會ハ政治上ノ責任ノ外一般手續ニ據ラズシテ之ヲ裁判ニ附スル權利ヲ有ス

第六十條 國民議會カ大臣會議ニ不信任ヲ表白シタルトキハ大臣會議ハ辭職スル義務ヲ負フ

第六十一條 大臣ハ國民議會カ之ニ對シテ提出セル一切ノ質問ニ答フル義務ヲ負フ

第五節 立法發議

第六十二條 極東共和國ノ市民ニシテ國民議會ニ關スル選舉權ヲ有スル者ハ皆立法發議權ヲ有ス本權利ハ以下條項ニ記載

シタル條件ニ據リテ行使スヘシ

第六十三條 法律又ハ其他ノ規定ノ發布ヲ希望スル請求書ハ市民千名ニ依リ署名サレサルヘカラス請求書ニハ發布ヲ請求スル法律又ハ規定ノ案文ヲ添附セザルヘカラス

第六十四條 大臣會議ハ其ノ全組織ニ於テ立法發議權ヲ有ス極東共和國政府モ亦同一ノ權利ヲ有ス

第六十五條 國民議會ノ議員全部ハ立法發議權ヲ有ス法律又ハ他ノ規定ノ發布ヲ希望スル請求書ハ議員五名ニ依リテ署名サレサルヘカラス而シテ請求書ニハ發布ヲ請求スル法律又ハ規定ノ案文ヲ添附セザルヘカラス

第二章 主權ノ地方機關

第一節 總則

第六十六條 國家主權ノ地方機關ハ自治機關ナリトス自治機關ハ一地方人民全部ノ一般、平等、直接及秘密投票ヲ以テ比例代表制ニ據リ選出スルモノトス

第六十七條 地方主權ノ州、郡、市、郷、村ノ各機關ハ州、郡、市、郷、村ニ在リテ地方ノ統治及經濟ニ關スル事項ヲ管掌シ尙ホ管轄區域内ニ於テ一般國家中央主權ノ法律、規則及命令全部ヲ實施スルモノトス

第六十八條 地方主權ノ機關ハ獨立シテ地方ノ統治及經濟ニ關ズル事物ヲ掌リ一般國家主權ノ發布スル法律及該機關ノ行動ニ關シ法律ヲ以テ定メタル監督ニ服従ス地方主權ノ機關ハ共和國ノ根本法及其ノ他ノ法令ニ違背セザルヲ條件トシテ

一般國家ノ法律及規則等シテ全人民及營造物ニ對シ一般強制力ヲ有スル地方強制規則ヲ發布スル權利ヲ有ス必要ニ因リ發布サレタル地方強制規則カ共和國ノ利益ニ反スル場合ニ於テハ政府ハ之ヲ停止若ハ廢止スルコトヲ得

第六十九條 或ル地域内ニ於テ一般國家中央主權ノ法律、規則及命令ヲ實施セムトスルトキハ地方主權ノ機關ハ中央主權ノ指揮ニ從ヒ規則及命令ノ不當ナル施行ニ對シ法律上ノ責任ニ任スルモノトス

第七十條 嚴格ナル中央集權(軍事、鐵道及其ノ他)ヲ必要トスル一般國家ノ目的ヲ遂行スル爲メ並ニ中央主權ノ管掌ス

ル土地、事業、建築及其他ノ領有物ヲ管理スル爲メ中央主權ハ法律ヲ定ムル手續ニ據リ地方ニ於テ中央主權ヲ機關ヲ設置ス前記一般國家ノ目的ヲ實行スル爲メ主權ヲ地方機關カ之ニ參加スルコトヲ得ル基礎及形式ハ法律ヲ以テ之ヲ定

第三節 主權ノ州機關

州會

第七十一條 州内ニ於ケル國家主權ノ最高機關ハ全權議員ヨリ成ル州會ナリトス

全權議員ハ比例代表制ニ據リ一般、平等、直接及秘密投票ヲ以テ州民之ヲ選舉シ其任期ヲ二箇年トス

第七十二條 州會ノ選舉ハ共和國國民議會ノ選舉ニ關スル法律ニ準シテ之ヲ行ヒ人口二千五百人ニ對シ全權議員一名ヲ選

出スル割合トス

第七十三條 州會ノ期限前總改選ハ一般國家ノ立法主權ノ決議ニ因リ又ハ選舉民三分ノ一ノ要求ニ因リテ之ヲ行フ

一選舉區全權議員ノ期限前改選ハ同選舉區選舉民三分ノ一ノ要求アルトキ之ヲ定ム

第七十四條 州會ハ自ラ定ムル時期ニ於テ通常會開會期ニ召集セラル其召集回数ハ一箇年二度ヲ下ラサルモノトス

州會ハ必要ノ程度ニ因リテ其意見若ハ州會議員三分ノ一以上ノ要求ニ因リ州會臨時會議ヲ召集ス

第七十五條 州會管掌事項ハ左ノ如シ

イ 州會ノ選舉

ロ 州内ニ於ケル主權ノ機關全部ニ對スル監督

ハ 州ノ地方ノ統治及經濟ニ關スル問題ノ解決

ニ 一般國家中央主權ノ法律、命令及規則ノ施行

ホ 特別ノ法律ニ據リ州會ノ管掌事項トシタル其ノ他ノ一切ノ問題並ニ州會カ共和國ノ憲法及法律ニ牴觸セスシテ審議

第七十六條 州會ノ希望スル州關係問題ノ解決

州會ノ取扱フ任務ヲ實行セムカ爲メ州會ハ下記ノ委任ヲ受ク

イ 州會管掌ノ一切ノ事項ニ關スル規定ノ發布

ロ 一般國家ノ立法部ニ準シ地方稅及取立金ノ決定

ハ 州收支豫算ノ審査及認可

ニ 一般國家主權ノ一切ノ法律規則及命令ヲ州内ニ於テ實施スル手續ノ制定

ホ 州廳事務計畫案ノ認可並ニ事務ニ關スル報告ノ審査

ヘ 州廳カ州内ニ於テ任務ヲ適當ニ實行セムカ爲メニスル一切ノ措置

州 廳

第七十七條 州廳ハ州會之ヲ選舉シ其ノ任期ヲ二箇年トス

第七十八條 州會ハ州廳ノ期限前改選ヲ決シ並ニ州廳員中ニ刑事犯人アルトキハ之ニ法律ノ責任ヲ負ハシムルヲ決スルコ

トヲ得

政府ハ州廳員ニ法律上ノ責任ヲ負ハシムルノ外州廳ノ期限前改選問題ヲ提起スル權利ヲ有ス之カ爲メ州會ノ臨時會議ヲ

召集スルコトヲ得

第七十九條 州廳ニ左ノ諸部ヲ置ク

行政部、勞働部、司法部、社會保護部、國民教育部、財務部、農業部、糧食部、商業部、工業部、保健部及其ノ他諸部

第八十條 州各部ハ州廳ヲ經テ相當官省ニ隸屬ス(第六十九條參照)

州廳ハ州各部ノ事務ニ付責ニ任ス

第八十二條 州ノ管掌事項ハ左ノ如シ

イ 中央主權ノ一切ノ法律、規則及命令ノ實施

ロ 州會ノ一切ノ決議及規定ノ實行

ハ 州廳ニ隸屬スル主權各機關ノ事務ノ組織及指導

ニ 犯罪豫防及防止策ノ實行

ホ 州豫算ノ編成

ヘ 州會及必要ノ場合ニ於テハ全權議員ヲ以テ組織スル郡會ノ召集

ト 特別ノ法律ニ據リ州廳ノ所管トシタル他ノ任務ノ實行

第八十二條 州會開會期ノ中絶シタルトキハ州廳ハ州會管掌事項ニ關シ強制力ヲ有スル規則ヲ發布スルコトヲ得本規則全部ハ必ス最近開會ノ州會ニ提出シテ之レカ審議ニ附スヘシ

第八十三條 州會及州廳ノ規則及命令ニシテ政府ノ法律及規則ニ牴觸スルトキハ中央主權ノ代表者ハ之ニ對シテ抗議スルコトヲ得而シテ之ニ關係ヲ有スル者及營造物ハ特別ノ法律ヲ以テ定メタル手續及根據ニ從ヒ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第三節 政府ノ州代官

第八十四條 中央一般國家主權及主權ノ地方機關ノ聯絡ヲ定ムル目的並ニ地方ニ於テ法律及民主制度ヲ定ムル目的ヲ以テ政府ノ州代官ニ關スル臨時規定ヲ設ク

第八十五條 州代官ハ政府ノヲ任命シ州ニ於ケル政府ノ代表者タリ

第八十六條 州代官ハ州内ニ於ケル主權ノ地方機關並ニ中央主權ノ造營物及代理者カ政府ノ法律、命令及規則ヲ實施スルニ關シ之レカ監督ニ任ス

第四節 主權ノ郡、市、郷及村機關

第八十七條 主權ノ郡、市、郷及村機關ハ郡、市、郷及村ノ境界内ニ於テ本根本法ノ前記數條ニ指定シタル主權ノ州機關

ニ關スル基礎及手續ニ據リ主權ヲ實行ス主權ノ郡機關ハ村機關ニ對シ郡機關ハ郷及村機關ニ對シ又州機關ハ郡、市、郷及村機關ニ對シ政府カ州機關ニ對シテ有スル權利ヲ有ス

第八十八條 市民二萬人以上ノ人口ヲ有スル市ハ獨立郡ノ權利ヲ以テ一般郡機關ヨリ之ヲ分離ス其ノ他ノ市ハ郷ノ權利ヲ以テ郡ノ組織中ニ入ル

第八十九條 郡會及郡會ノ權利ヲ有スル市會ハ州會ト同様ノ順序ニ據リ選舉セラレ其ノ任期ヲ二箇年トス全權議員ハ市民千人ニ對シ一名ノ割合トスルモ各郡ノ全權議員ノ總數ハ三十名以下及百五十名以上ナルコトヲ得ス

第九十條 郡會及郡會ノ權利ヲ有スル市會ハ州會及郡會ニ關シ制定シタル順序ニ準シテ選舉セラレ其ノ任期ヲ一年トス全權議員ハ市民百人毎ニ一名トスルモ郡會ノ全權議員ノ總數ハ二十名以下及百名以上ナルコトヲ得ス本條ニ指定シタル市會ノ全權議員ノ總數ハ五十名以上ナルコトヲ得ス

第九十一條 郡會、市會及郡會ハ州會ニ關シ指定シタル順序ヲ以テ召集スルモ市會ハ一年十二回以上郡會ハ三回以上會議ヲ開クヘシ

第九十二條 村會ハ村内ニ於テ國民議會ニ關スル選舉權ヲ有スル市民全部ヲ以テ組織シ必要ニ應ジテ之ヲ召集ス

第九十三條 村會ハ村會中ヨリ村委員會ヲ選舉ス其ノ任期ハ六箇月以上二年以下トス

第三章 裁判

第九十四條 共和國領土内ニ單一ノ人民裁判所存在ス

第九十五條 裁判所ハ他官憲ヨリ獨立シ極東共和國國民ノ名ニ依テ正當裁判ヲ行フ

第九十六條 裁判機關ハ共和國ニ於ケル法律ヲ遵守者ニシテ其ノ權力ハ各領土及共和國ノ全人民ニ遍布ス

裁判機關ノ組織管轄範圍及事務取扱手續ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第九十七條 裁判官ハ法律ヲ以テ定メタル條件ニ適合セル市民中ヨリ法律ノ定メタル任期ヲ以テ之ヲ選出ス任期満了前ニ

在リテハ裁判官ハ裁判所ノ宣告ニ據リテ之ヲ更迭セシメラベシ
第九十八條 共和國ノ市民ハ陪審者トシテ正當裁判ヲ施行ニ參與シ裁判官ト等シク共ニ事件ヲ決ス

第九十九條 正當裁判ヲ行フニ付裁判官ハ現行法律及自己良心ノ命令ノ指導ヲ受ク
第一百條 裁判ノ取調並ニ宣告及判決ハ公開シテ之ヲ行フヘシ唯法律ニ基キテ裁判所ノ決定シタルトキノミ裁判ノ取調ヲ秘

密ニ行フコトヲ得
第一百一條 特別裁判所ノ組織並ニ同裁判所所管ノ事件ハ法律ヲ以テ明確ニ指定セサルヘカラス

第一百二條 控訴手續ヲ以テ爲ス訴願ハ之ヲ廢止シ唯判決ハ覆審ヲ許ス覆審院ハ裁判ノ判決ヲ以テ明カニ不當ナリト認メタルトキ之ヲ破棄スル權利ヲ委任セラル

第四章 國民監督院

第一百三條 國民監督院ハ獨立シ所管事項ノ範圍内ニ於テ立法主權ニ直隸ス
第一百四條 國民監督院ニ入ル者ハ左ノ如シ

- 一 國民國務監督官及政府ノ任命スル副監督官
- 二 國民監督院職員
- 三 國民監督院會議
- 四 中央國民監督院
- 五 國民監督院地方支署

第六十國民監督院野外支署
第一百五條 國民監督院中央職員ハ國民國務監督官中央職員ノ長タリ、副監督官二名及職員五名ヲ以テ之ヲ組織ス職員中一名ハ極東勞働者聯合會ヨリ三名ハ農民聯合會ヨリ及一名ハ共和國土著民族ヨリ之ヲ選出ス被選出員ハ全權ヲ立法主權正式

ニ之ヲ決ス

備考 全權東農民機關ノ聯合成立以前ニ在リテハ農民ヨリ選出スル中央職員ハ國民議會ノ農民代表者之ヲ選出ス

第一百六條 國民監督院ノ州職員ハ中央職員ノ任命スル國民監督院州部主任（職員ノ長タリ）、副主任及州會カ其ノ全權期間

ヲ任期トシテ選出シタル職員三名ヲ以テ組織ス
第一百七條 國民監督院郡職員ハ中央職員ノ任命シタル國民監督院郡部（主任職員ノ長タリ）及郡會カ其ノ全權期間ヲ任期

トシテ選出シタル職員二名ヲ以テ組織ス
第一百八條 國民國務監督官ハ評議權ヲ以テ大臣會議及政府會議ニ出席ス

第一百九條 國民監督院ハ

一 國民經濟ニ關シ政府營造物及官吏並ニ公共機關及個人事業ノ行爲カ適法且以有益ナルヲ監督ス
備考 公共機關及個人事業カ政府ノ資金ニ依ルカ又ハ補助ヲ受タルトキハ政府ノ委託者ハ保障ニ依リテ行動スルモノナルカ故ニ唯此ノ場合ニ限り國民監督院ノ調査監督ヲ受ク

ロ 中央及地方ニ於テ法律及適法ナル手續ニ據リテ發布シタル國民經濟ニ關スル規定ヲ確實ニ且ツ遵守ナク履行スルヲ監督ス

ハ 生産品及消費物ノ正當ナル分配ヲ調査ス
ニ 國民經濟ノ各部門ヲ研究シ其ノ結果ヲ報告ス

ホ 財政豫算、收入計畫案及收支表ヲ調査シ國民議會ニ豫算ノ提出セラルト同時ニ立法機關ニ對シ收支表ニ關スル意見ヲ提出ス

ヘ 支出表ニ從ヒテ支辨シタル支出金ノ正確ヲ監督ス
ト 各種財政經濟計畫及發令官廳ノ提議並ニ各官廳ヨリ立法主權ニ提出スル法律案及命令案ニシテ國庫ノ新支出ニ關係

ヲ有シ又ハ共和國ノ財政經濟政策ヲ變更ヲ來スヘキモノハ付意見ヲ提出ス
 ナ 國民ノ財産ニ明カニ損害ヲ來スヘキ特別ノ場合ニ在リテハ發令官廳ノ相當ナル豫定ヲ禁止ス
 リ 豫算提出ノ爲メ指定シタル期間中ニ立法機關ニ提出セムカ爲メ國民財産ヲ計算シ毎年其ノ狀態及移動ニ關スル報告
 ヲ作成ス

ス 一切ノ官衙地方ニ於ケル官署及一般ニ主權ノ諸機關ニ對シ直接ノ監督ヲ行フ
 ル 勤務上ノ怠慢及犯罪アリタル官吏並ニ國庫ニ損失ヲ來サシメタル犯罪ヲ行ヘル私人ヲ裁判ニ附シ且ツ官吏罷免ニ關
 シ主權ノ相當機關ニ對シ之レカ通知ヲナス

第百十條 目的トスル任務ヲ實行セムカ爲メ中央及地方ニ於テ勞働民ノ廣汎ナル階級ヲシテ通常事務及各個檢察行爲ニ之
 ヲ參與セシム

第百十一條 國民監督院ノ各署ニ訴願部ヲ設ケ各官廳ノ官吏ノ不正行爲職權濫用及不法行爲ニ關スル訴願及覆書ヲ受理ス
 第百十二條 國民監督院野外交署ハ監督院ノ機關中ニ編入セラレテ國民監督院ニ隸屬シ之ヲ經テ立法主權ニ隸屬ス

第五章 民族ノ自治

第一節 總則

第百十三條 共和國領土内ニ於ケル一切ノ土著民族及少數民族ハ廣汎ナル自治權ヲ附與セラル

第百十四條 民族自治ノ機關ハ其ノ行動ニ付共和國法律ノ指導ヲ受ケ

第百十五條 民族自治機關ノ行動ヲ監督指導スル爲メ相當民族部ヲ有スル民族事務省ヲ設置ス

第二節 「フリヤート」蒙古民族ノ自治

第百十六條 「フリヤート」蒙古民族ノ居住スル領土全部ハ特別州トシテ之ヲ分離シ「フリヤート蒙古自治州」ト稱ス其ノ境
 界ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第百十七條 「フリヤート」蒙古人ト近傍ノ露國人トノ土地關係ハ錯綜セルヲ整理スル目的ヲ以テ共和國政府ハ特ニ設置シ
 タル委員會之ヲ調節ス而シテ均等主義ニ據リ問題解決ニ關係ヲ有スル雙方ノ代表者ヲ委員會ニ列セシム

第百十八條 「フリヤート」蒙古自治州ノ人民ハ共和國ノ一般法律ニ服從ス而シテ自治州ニ在リテ裁判所構成行政經濟的及
 文化民族の生活ニ關シテ獨立ス

第百十九條 自治「フリヤート」蒙古州ハ其ノ權限内ニ於テ共和國ノ一般法律ヲ根據シ全權議員ノ組織スル州會ニ依リテ
 自治ヲ行フ州會ハ執行機關タル州廳ヲ選舉ス州會ハ本根本法第百十八條ニ指定シタル獨立ノ範圍内ニ於テ共和國ノ一般
 法律ニ抵觸セサル州内地方法律ヲ發布スル權利ヲ有ス
 第百二十條 一般國家の性質ヲ有スル政府ノ法律、命令及規則全部ハ「フリヤート」蒙古自治州領内ニ於テ州廳ヲ經テ實施
 ス

第三節 少數民族ノ自治

第百二十一條 共和國領土内ニ居住スル一切ノ少數民族ハ文化民族自治權ヲ附與セラル

第百二十二條 文化民族自治ハ一般、平等、直接、秘密投票ニ據リ比例代表制ヲ以テ選出シタル民族自治機關之ヲ實施ス

第百二十三條 民族自治ハ一般的法律能力ヲ有スル機關ニシテ其ノ權限ハ民族ノ文化的生活ニ限ルモノトス

第百二十四條 民族自治體ノ用語ハ當該民族ノ言語即チ「ウクライン」語、猶太語（イヂシ）、朝鮮語、韃靼語及其ノ他トス

第百二十五條 各民族ノ文化的必要アルトキハ必要ノ實際額ニ順ミ豫算ノ配分部ノ一般國家資金ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第五編 國民經濟制度ノ基礎

第一章 土地

第百二十六條 極東共和國境界内ニ於ケル土地、地中埋藏物、森林、水域及其ノ產物ハ一切ノ所有權ハ永久ニ之ヲ廢止ス

第二百二十七條 一切ノ土地ハ何人カ之ヲ使用シ又ハ領有スルヲ問ハス何等買収ヲ行ハスシテ之ヲ勞働民ノ財產トシ一般國民ノ基本財産トス

第二百二十八條 土地、地中埋藏物、森林、水域及其ノ產物ノ使用及處置手續ハ特別法律ヲ以テ之ヲ定ム

第二百二十九條 村落經濟ノ意義ヲ有スル土地ヲ勞働者ニ附與シテ之ヲ使用セシムルハ地味及氣候ノ狀態ニ因リ地方自治體ノ土地機關ノ定ムル標準ニ據リテ之ヲ決ス

備考「ブリヤード」蒙古人ノ牧畜經濟ノ土地標準ハ該人ノ經濟狀態ニ從ヒテ之ヲ定ム

第二百三十條 土地使用權ノ一般的基礎的起原ハ個人ノ勞働ナリトス本則テ除外例ハ土地ニ關スル法律ヲ以テ特ニ定メタル場合ニ於テ之ヲ許ス然レドモ土地使用權ハ宗教民族及男女ノ性ニ關係ヲ有スベキモノニ非ズ

第二百三十一條 土地使用ノ形式ハ人民自ラ之ヲ希望ニ從ヒ集團團體又ハ個人ノ形式ト爲スコトヲ得

第二章 勞働

第二百三十二條 極東共和國ハ國民經濟ノ組織及國民經濟復興ノ重務ヲ均等ニ分配スルヲ目的トシ勞働ヲ以テ共和國ノ市民全部ノ義務ト認ム

第二百三十三條 各勞働者ノ普通勞働時間ノ長サハ日中八時間夜間六時間ヲ超ユルコトヲ得ス而シテ毎週ノ連續休息時間ハ四十二時間以上トス

第二百三十四條 普通勞働時間ノ長サハ十八歳ニ達セサル者及特ニ困難ニシテ健康ハ爲メ不良ナル勞働ニ從事スル者ニ對シ六時間ヲ超ユルコトヲ得ス

第二百三十五條 時間外作業ハ一般法則トシテ之ヲ許ササルモ唯特別ノ場合ニ於テ地方勞働部ノ職業聯合會ガ同意シタル時ノミ之ヲ實行ス

第二百三十六條 村落經濟ノ作業ニ在リテハ其ノ特別ナル故ニ因リ時間外勞働ヲ許ス而シテ勞働賃銀ハ八時間勞働ノ割合ヲ

以テ之ヲ定ム

第二百三十七條 自己ノ勞働ニ依リ土地ヲ耕作スル農夫ノ勞働生産物ノ評價ハ勞働農民同盟カ一日八時間勞働ノ割合ト物質ノ費消トヲ計リテ提議シタルモノニ從ヒ立法手續ヲ以テ之ヲ定ム

第二百三十八條 特ニ困難ニシテ健康ニ危險ヲ及ホスベキ種類ノ時間外作業ハ十八歳未満ノ男子及女子全部ニ對シテ之ヲ許サス而シテ夜間ニ於ケル作業ハ十八歳未満ノ男子及女子全部ニ對シテ之ヲ許ササルコト勿論ナリトス

第二百三十九條 筋肉勞働ニ從事スル女子ハ産前八週間、産後八週間又筋肉勞働ニ從事セサル女子ハ産前六週間産後六週間作業ヲ免セラル

第二百四十條 十六歳未満ノ兒童ノ雇傭勞働ヲ禁止ス

第二百四十一條 勞働者ノ實際ノ最低生活費ヲ安全ナラシムヘキ目的ヲ以テ共和國ハ勞働者ヨリ中央機關ノ名ヲ以テスル提議ニ從ヒ立法手續ニ據リ實際ノ最低賃銀ヲ決定ス本最低賃銀ハ國立及公立並ニ私立事業全部ニ對シ強制效力ヲ有ス

第二百四十二條 勞働者ハ職業組合及生産組合ヲ經テ國家經濟機關ハ國立事業ノ管理並ニ私設事業ノ國家監督ニ議決權ヲ以テ參與スル權利ヲ保障セラル

第二百四十三條 共和國ハ適當ナル法律ヲ發布シテ勞働者ノ全力保護ヲ保障シ職業組合ノ選舉シタル勞働保護監督ヲ經テ勞働者ヲ汎ク之ニ參加セシム

第二百四十四條 社會的危險ノ場合ヲ顧慮シ國立、公立及私立事業及營造物ニ雇傭セラレテ勞働スル者ヲ含メル一切ノ者ニ對シ社會保險ヲ附シ掛金ハ雇主ヨリ之ヲ徵收シ被保險者ノ勞銀ヨリ何等ノ控除ヲ行ハシメサルモノトス

第二百四十五條 一年以上勞務ニ服シタル勞働者及勤務者全部ニハ一箇月ノ休暇ヲ又六箇月以上勞務ニ服シタル者ニハ半箇月ノ休暇ヲ與ヘ之ヲ手當ヲ給スルヲ定ム

第三章 財政經濟制度

第一節 總 則

七二

第百四十六條 私有財産法之ヲ保存ス市民及私設會社ハ其ノ動産及不動産ニ付根本法ニ於テ定メタル制限ヲ附シテ其ノ不可使ヲ保障セラル

第百四十七條 地中埋藏物林産物及水産物ノ富資ヲ貸借又ハ「コンセッション」形式ニ依リ私人及私設會社ニ對シ臨時ニ使用及採取スル權利ヲ附與スルハ適當ナル立法手續ニ據リ之ヲ行フモ「コンセッション」及貸借ノ期間ハ三十

六年ヲ超ユルコトヲ得ス

貸借及「コンセッション」ノ權利ハ外國人及外國會社ニ之ヲ與フコトヲ得ルモ競争者アリテ其ノ申出條件同様ナルトキハ特權ハ極東共和國及露西亞社會主義聯邦「ソヴィエト」共和國ノ市民及會社ニ與フルコト勿論ナリトス

私人及公共機關ノ競争行ハレ其ノ申出條件同様ナルトキハ特權ハ公共機關ニ與フルモノトス

第百四十八條 國家ハ相當ナル立法手續ニ據リ各種ノ農村勞働經濟ニ對シ多方面ノ援助ヲ與フ援助ハ先ツ最モ窮乏ヲ感スル農業經濟ニ與フ國家ハ集合公共經濟ヲシテ公共的形態ヲ以テ發達セシムカ爲メ同經濟ノ各種類ヲ獎勵ス

第二節 租 稅

第百四十九條 何人ト雖法律ヲ以テ定メタル場合ヲ除クノ外租稅支拂ノ義務ヲ免ルルコトヲ得ス

第百五十條 法律ヲ以テ明確ニ除外例ヲ設ケタル場合ノ外國家用若ハ地方自治用トシテ何等ノ課金タリトモ租稅ノ形式ニ依ルニ非サレバ之ヲ市民ニ要求スルコトヲ得ス

第百五十一條 如何ナル直接稅及如何ナル取立金ト雖法律ノ效力ニ據ルニ非サレバ共和國領土内ニ於テ之ヲ實施徵收スルコトヲ得ス

第百五十二條 一般國家ノ租稅及取立金ノ制定ハ立法主權ノ特權トス

地方自治機關カ地方的ノ租稅課金及取立金ヲ制定セムトスルトキハ第七十六條ニ規定シタル手續ニ據ル

第百五十三條 多量ノ需要ナル物品ニ對スル間接稅ハ法律ノ嚴定シタル基礎及金額内ニ於テ唯臨時方針トシテ之ヲ許ス

奢侈品ニ對スル間接稅ハ永久方針トシテ之ヲ許ス間接稅ハ立法手續ニ依リ毎年之ヲ改正ス

第三節 國家ノ收入及支出並ニ收支表

第百五十四條 國家ノ基礎收入ハ累進所得稅、累進財產稅、移動稅即チ所有權登記稅、相續稅、價格不當騰貴稅、贈與物受納稅及其ノ他ノ諸稅並ニ獨占業ノ收入ヨリ成立セサルベカラズ

備考 課稅サレタル最低收入並ニ課稅ヲ免除サルル財產及家計用具ノ最低價ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第百五十五條 商業及生産ニ關スル國家ノ獨占業並ニ國家ノ利益ノ爲メ之ニ加算ヲ行フ金額ハ立法手續ヲ以テ之ヲ定ム

第百五十六條 國家ノ用トシテ徵收スル收入及國家ノ支出全部ハ一般國家收支表中ニ一致セシムヘシ

第百五十七條 國家收支表ハ豫算年度開始ノ二箇月以前ニ國民議會ニ提出シテ認可ヲ經ヘン

備考 第一回豫算收支表認可前ニ在リテハ國費支辨ノ爲メ政府ハ立法手續ニ據リ各個ノ場合ニ付支出ヲ行フ

第百五十八條 若シ豫算年度開始以前ニ於テ國家收支表ノ認可サレタルトキハ政府ハ認可アリタル前年度ノ國家收支表ニ據リ國費支辨ノ爲メ支出ヲ爲スコトヲ得但シ支出ハ一年ノ三分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第百五十九條 國家資金ヲ以テスル支出ハ一項目タリトモ國家收支表中ニ於テ之ニ對スル支出金ナキカ又ハ特別法律ノナキニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百六十條 國家ノ資金中ヨリ支出スル何等ノ恩給若クハ賞與タリトモ法律ノ效力ニ據ルニ非サレバ之レカ支給ヲ定ムルコトヲ得ス

第百六十一條 國家收支表ニ從ヒテ支出スル資金ハ豫算ニ豫定シタル範圍内ニ於テ其ノ直接費目ニ對シテ之ヲ支出ス而シテ他ニ何等ノ必要アリトモ之ニ對スル政府ノ特別決定ナキ限り之ヲ流用スルコトヲ得ス

第四節 國 債

七三

第百六十二條 國家ノ負擔ニ歸スヘキ如何ナル内國公債及外國公債タリトモ如何ナル財務證券タリトモ及如何ナル抵當物

タリトモ法律ノ效力ニ據ルニ非サレハ之ヲ實施シ又ハ約束スヘカラス

備考 共和國政府カ本憲法可決以前ニ實施シ憲法議會ノ承認ヲ經タル公債ハ財務證券及抵當物ハ共和國ニ於テ之ヲ有
效トシ且憲法實施中ト等シク保障ヲ與ヘタルモノト認メラル

第五節 幣 制

第百六十三條 法律ノ效力ニ據ルニ非サレハ貨幣流通ニ關スル何等ノ制度ヲ定メ貨幣價格ヲ切捨テ通用ヲ廢止シ及新貨幣
ヲ發行スルヲ得ス

第百六十四條 貨幣ノ重量品位及價格ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム貨幣ニ關スル一切ノ監督貨幣品位及試驗ニ關スル爭議及之ニ
關スル一切ノモノノ解決並ニ紙幣ノ流通ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六編 共和國ノ國防

第百六十五條 武裝シタル市民ハ自ラ享有スル自由ノ唯一ノ保護者ナリ故ニ國防ヲ爲メ原則トシテ年齡十八歳乃至四十五

歳ノ共和國男性市民全部ニ一般軍事教育ヲ施スヘキ國民兵制度ヲ採ル

第百六十七條 一般教育ハ軍區ノ結合軍隊ニ於テ之ヲ行ヒ市民ヲシテ社會生産勞動ニ從フコトヲ中止セシムルコトナシ

備考 共和國ハ軍區分割並ニ一般教育課程ハ立法手續ヲ以テ之ヲ定ム

第百六十七條 國防ノ常設主要體ハ正規人民革命軍ナリトス軍ハ共和國ノ男性市民ニ對スル一般兵役ヲ基礎トシテ編制シ
下記ノ者ヲ以テ組織ス(一)二十歳ニ達シタル市民ニシテ一般兵役ニ就役ノ爲メ二年間召集サレタル者(二)十八歳以上ノ

義勇兵、義勇兵數ハ立法手續ヲ以テ之ヲ定ム

第百六十八條 共和國土着民族ハ軍務就役ハ特別ノ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第百六十九條 人民革命軍ノ最高統帥機關タルモソハ極東共和國政府ナリトス

第百七十條 人民革命軍ノ編制及組織順序ハ立法手續ヲ以テ之ヲ定ム

第百七十一條 共和國國防ノ爲メ政府ハ武器攜帶ハ能力ヲ有スル市民ノ全部若ハ一部ヲ動員スル權利ヲ委任セラル武器携

帶ハ能力ヲ有スル市民ノ全部若ハ一部ノ動員ハ立法手續ニ依ルニ非サレハ之ヲ行ハス

第百七十二條 現役ニ服務中ノ市民ノ給與家族保護ノ方法並ニ兵役ニ服シ爲メニ勞働能力ヲ失ヒタル市民及共和國國防ノ
爲メ死亡シタル者ノ家族ノ社會保護ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第百七十三條 各市民ハ兵役服務中ニ於テ一切ノ市民權ヲ有シ共和國ノ他ノ市民全部ト等シク一切ノ市民義務ヲ負フ

第七編 國民教育

第百七十四條 共和國ハ其ノ市民全部就中先ヅ勞働者ニ諸般ノ教育ヲ與フルヲ目的トス

第百七十五條 小學校ハ之ヲ教會ヨリ分離ス一般教育課目ヲ教授スル一切ノ國立、公立及私立學校ニ於テハ宗教教儀ノ授
業、宗教儀式ノ舉行ヲ許サス

第百七十六條 學齡ニ達シタル兒童ハ國家ノ負擔ヲ以テ之ニ無料義務教育ヲ施シ社會保護ヲ與フ

第百七十七條 共和國小學校全部ニ於テハ男女混合教育ヲ行フ

第百七十八條 共和國小學校全部ニ於ケル教育ハ目的ノ一致、課目内容ノ繼承ヲ以テ統一シ勞働主義ノ授業ヲ基礎トシ

タル單ニ公制度タラサルベガオスニ止ラズ

第百七十九條 共和國ニ於ケル一切ノ民族ハ自國語ヲ以テ教育ヲ組織スル權利ヲ附與セラレ得

第八編 共和國ノ國章及國旗

